

| | | | |
|-----|-------|-----------|------|
| 科 目 | 解剖学VI | 分野区分 | 専門基礎 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 1年次 |
| | | 実施学期 | 前期 |
| 教員名 | 太田 和幸 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 参考書 | 「解剖学解剖学講義」(南山堂) 「ネッター解剖学図譜」(丸善株式会社) 他に授業時に配布する資料を参考にする。 |
| 成績評価 | 定期試験の結果による。 |
| 留意事項 | 復習をして授業に臨むこと。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 解剖学の概説を学び、統いて内臓系、運動器系、神経感覺系の構造と機能を知り、最終的には局所的構造を理解し、臨床科目や鍼灸実技で活用できる知識を構築する。 |
| 授業概要 | 人体を構成する組織、各器官の各部位・各臓器の正確な名称を把握する。 また、各器官のつながりや走行などの局所解剖としての位置関係と役割を理解する。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|------------|
| 1 | 解剖学概論 |
| 2 | 解剖学総論 組織 |
| 3 | 循環器 |
| 4 | 呼吸器 |
| 5 | 消化器 |
| 6 | 泌尿器 |
| 7 | 生殖器 |
| 8 | 内分泌器 |
| 9 | 運動器 |
| 10 | 神経 |
| 11 | 感覺器 |
| 12 | 局所解剖① |
| 13 | 局所解剖② |
| 14 | 局所解剖③ |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 定期試験の解答と解説 |

| | | | |
|-----|---------|-----------|------|
| 科 目 | 臨床医学総論Ⅱ | 分野区分 | 専門基礎 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 1年次 |
| | | 実施学期 | 前期 |
| 教員名 | 太田 和幸 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 参考書 | 「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「写真で学ぶ整形外科テスト法」ジョセフ・シプリアーノ著(医道の日本社) 「診察と手技がみえる」田邊政裕編集(メディックメディア) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 基礎となる解剖学、生理学の復習や鍼灸臨床評価実習と併せた学習を行うこと。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 医療従事者として臨床に不可欠な診察法、検査法の基礎知識を身に付け、鍼灸臨床に応用できる能力を養う。またその知識を活用し患者の訴える症状から正しい鑑別診断ができることを目標とする。 |
| 授業概要 | 症状・所見から疾患や弁証に結び付けられるように、それぞれの特徴について講義する。 また、患者が訴える症状の原因疾患は何か、病態生理を把握しながら学習する。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|-----------------------------|
| 1 | 授業概要 診察の方法、 生命徵候 |
| 2 | 全身の診察 ① |
| 3 | 全身の診察 ② |
| 4 | 全身の診察 ③ 局所の診察 ① |
| 5 | 局所の診察 ② |
| 6 | 局所の診察 ③ |
| 7 | 神経系の診察 ① |
| 8 | 神経系の診察 ② |
| 9 | 運動機能検査 ① |
| 10 | 運動機能検査 ② |
| 11 | 臨床検査法 |
| 12 | 頭痛・咳痰・息切れ・動悸・口渴 |
| 13 | 排尿障害・便秘・下痢・月経異常・易感染症 |
| 14 | 意識障害・ショック・吐血下血・血痰喀血・出血傾向・貧血 |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 定期試験の解答と解説 |

| | | | |
|-----|---------|-----------|------|
| 科 目 | 臨床医学各論Ⅲ | 分野区分 | 専門基礎 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 1年次 |
| | | 実施学期 | 前期 |
| 教員名 | 與那霸 真樹 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 参考書 | 「病気がみえる Vol. 7 脳・神経」(メディックメディア) 「全部見える 脳・神経疾患」(成美堂出版) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「病理学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 解剖学・生理学(免疫系、循環系、神経系、筋・運動系など)の基礎知識について復習し、不得意な領域をなるべく少なくしておく事。 同学期に学習している病理学(免疫系、感染症、炎症など)の専門用語も必要となるので注意してください。 |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 神経系疾患の病態生理を把握し、症状や検査結果が類似する疾患を鑑別できる視点を養う事を目指す。 |
| 授業概要 | 神経系の構造・機能の知識に基づき、各神経系疾患の概念(病理や疫学上の特徴)・症状(自覚症状・他覚所見など)・診断(検査方法・検査結果など)・治療(薬物投与や手術などの種類など)・経過予後(生命予後や後遺症の有無など)を学習する。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|--|
| 1 | 脳血管疾患①：脳循環の解剖・生理、脳梗塞(脳血栓／脳塞栓)、一過性脳虚血発作 |
| 2 | 脳血管疾患②：脳出血、クモ膜下出血 感染性疾患：髄膜炎(ウイルス性髄膜炎(ポリオなど)、細菌性・結核性・真菌性髄膜炎) |
| 3 | 脳・脊髄腫瘍①：脳腫瘍、神経膠腫、髄膜腫、転移性脳腫瘍 |
| 4 | 脳・脊髄腫瘍②：下垂体腺腫、神経鞘腫、脊髄腫瘍 |
| 5 | 基底核変性疾患：パーキンソン病、ハンチントン舞蹈病、脳性小児麻痺、ウィルソン病 |
| 6 | その他変性疾患：脊髄小脳変性症、脊髄空洞症、進行性核上性麻痺、パーキンソニズム |
| 7 | 認知症性疾患：認知症(アルツハイマー病およびアルツハイマー型老年認知症)、 脳血管型認知症(多発脳梗塞型認知症)、ピック病、一般身体疾患に伴う認知症) |
| 8 | アレルギー性の神経および神経筋接合部での疾患： 重症筋無力症、ランバートイートン症候群、ギランバレー症候群、多発性硬化症、 |
| 9 | 筋疾患：重症筋無力症、進行性筋ジストロフィー、筋強直性筋ジストロフィー |

| | |
|-----|---|
| 1 0 | 運動ニューロン疾患：筋萎縮性側索硬化症、(シャルコー・マリー・ツース病) |
| 1 1 | 末梢神経障害：ギランバレー症候群、圧迫性・紋扼性ニューロパシー、ベル麻痺、ラムゼーハント症候群 |
| 1 2 | 神経痛：三叉神経痛、肋間神経痛、坐骨神経痛、後頭神経痛 |
| 1 3 | 機能性疾患：緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛 |
| 1 4 | まとめ、試験の概要説明 |
| 1 5 | 定期試験 |
| 1 6 | 解答と解説 |

| | | | |
|-----|-------|-----------|------|
| 科 目 | 医療倫理 | 分野区分 | 専門基礎 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 1.6 |
| | | 履修年次 | 1年次 |
| | | 実施学期 | 前期 |
| 教員名 | 下山 隆朗 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|-------------------------------------|
| 教科書 | 特になし |
| 参考書 | 「社会あはき学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 自分で考え、積極的に発言する。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 治療者とは何か、治療者がとるべき態度はいかなるものか、治療者に必要なものは何か、そして何のために鍼灸師になろうと思ったのか、上記の事を踏まえ医療倫理を考察し、あわせて現代の諸問題、課題を考えていく。 |
| 授業概要 | 治療者としての基本的な心構え、知識を共に考えていく。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|------------------|
| 1 | 鍼灸師として将来はどうあるべきか |
| 2 | 鍼灸師として将来はどうあるべきか |
| 3 | 鍼灸師として将来はどうあるべきか |
| 4 | 鍼灸師として将来はどうあるべきか |
| 5 | 職業としての鍼灸 |
| 6 | 現代の課題、諸問題 |
| 7 | 定期試験 |
| 8 | 定期試験の考察 |

| | | | |
|-----|------|-----------|------|
| 科 目 | 関係法規 | 分野区分 | 専門基礎 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 16 |
| | | 履修年次 | 1年次 |
| | | 実施学期 | 前期 |
| 教員名 | 原島 基 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 「関係法規 第7版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 参考書 | 特になし |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 法律は毎年改正されます。過去資料の使用には十分注意すること。 進行状況により、シラバスの内容が変更されることもあります。 適宜プリントを配布する為、教科書と共に持参すること。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 医療従事者として必要な法律の知識を理解し、携われる業務の境界線を理解する。 |
| 授業概要 | 法の概要と、あはき師法、医療法、医師法を含む医療従事者に必要な法律の知識を理解する。 法は患者、施術者を守ることと理解し、法の中で何が出来ることなのかを考え、理解を深める。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|-----------------------------|
| 1 | 法律とは 免許と試験 業務 |
| 2 | 届出（開設届け・出張届等） |
| 3 | 罰則（あはき師法の罰則・医師法の罰則・医業類似行為等） |
| 4 | 関係法規（医療法等） |
| 5 | 関係法規（医療法等） |
| 6 | まとめ |
| 7 | 定期試験 |
| 8 | 解答解説 |

| | | | |
|-----|---------|-----------|------|
| 科 目 | はりきゅう理論 | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 1年次 |
| | | 実施学期 | 前期 |
| 教員名 | 原島 基 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | 「はりきゅう実技<基礎編>」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 成績評価 | 定期試験を8割、小テストを2割として総合評価をする。 総合評価、または定期試験が60点に満たない者は再試験とする。 |
| 留意事項 | 遅刻・欠席をしないこと。 教科書は持参して下さい。 授業内容の復習を心掛けて下さい。 進行状況により、シラバスの内容が変更されることもあります。 |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 本科目は「鍼」と「灸」の基礎知識を学び、そのリスクについて理解することを目標とする。 |
| 授業概要 | 鍼灸臨床で用いる器具、技術、衛生的処置をきちんと理解し実践できること。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|------------|
| 1 | オリエンテーション |
| 2 | 鍼の基礎知識 |
| 3 | 刺鍼の方式と術式① |
| 4 | 刺鍼の方式と術式② |
| 5 | 特殊鍼法 |
| 6 | 灸の基礎知識 |
| 7 | 灸術の種類 |
| 8 | 鍼灸の臨床応用① |
| 9 | 鍼灸の臨床応用② |
| 10 | 鍼灸の臨床応用③ |
| 11 | リスク管理① |
| 12 | リスク管理② |
| 13 | リスク管理③ |
| 14 | 総合演習 |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 定期試験の解答と解説 |

| | | | |
|-----|----------|-----------|------|
| 科 目 | 経絡経穴概論 I | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 1年次 |
| | | 実施学期 | 前期 |
| 教員名 | 内藤 玄吾 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) |
| 参考書 | ツボがある本当の意味 (B A B ジャパン) 針灸学 [経穴編] (東洋学術出版社) 経穴主治症総覧 (医道の日本社) 臨床経穴ポケットガイド (医歯薬出版) |
| 成績評価 | 小テスト3割、定期試験7割による総合評価。 総合評価、または定期試験が60点に満たない者は再試験とする。 |
| 留意事項 | 経穴カードを次回までに作成してくること。期日までに未作成の者は減点(-5点)とする。 授業内だけで覚えられる量では無いので、自宅での学習に努めること。 |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 経絡経穴についての基礎的知識（経絡名・経穴名・取穴部位）を理解習得し、鍼灸師としての基礎を作る。 |
| 授業概要 | 講義とアクティブラーニングの形式で実施する。講義では経穴名の由来と主治について、アクティブラーニングでは絵を書き、ビジュアルで経絡の流れと取穴法を記憶整理する。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|----------------------------------|
| 1 | 1章 経絡・経穴の基礎、2章 十四経脈とその経穴 手の太陰肺経① |
| 2 | 2章 十四経脈とその経穴 手の太陰肺経②、手の陽明大腸経① |
| 3 | 2章 十四経脈とその経穴 手の陽明大腸経① |
| 4 | 2章 十四経脈とその経穴 手の陽明大腸経② |
| 5 | 2章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経① |
| 6 | 2章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経② |
| 7 | 2章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経③ |
| 8 | 2章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経④ |
| 9 | 2章 十四経脈とその経穴 足の太陰脾経① |
| 10 | 2章 十四経脈とその経穴 足の太陰脾経② |
| 11 | 2章 十四経脈とその経穴 手の少陰心経、手の太陽小腸経① |
| 12 | 2章 十四経脈とその経穴 手の太陽小腸経② |
| 13 | 2章 十四経脈とその経穴 督 脈、任 脉 |
| 14 | まとめ |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 解答・解説 |

| | | | |
|-----|----------|-----------|------|
| 科 目 | 東洋医学概論 I | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 1年次 |
| | | 実施学期 | 前期 |
| 教員名 | 飯塚 聰 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | 適宜、紹介をする |
| 成績評価 | 定期試験の結果を主に、授業へ参加する姿勢も考慮の対象とする。 |
| 留意事項 | 遅刻・欠席をしないこと。質問は授業終了時までに必ず行い、疑問を持ち越さないこと。 |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 東洋医学についての基礎的な知識を学び、専門用語を理解する。 東洋医学的な人体の見方や病理を理解し、国家試験や臨床に応用する力をつける。 |
| 授業概要 | 東洋医学の歴史や哲学、人体の見方やその生理・病理を学ぶ。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|---|
| 1 | 第1章 東洋医学の特徴：東洋医学の沿革・人体の見方 第3章 東洋医学の思想：陰陽学説 |
| 2 | 第3章 東洋医学の思想：五行学説 |
| 3 | 第1章 東洋医学の特徴：日本の東洋医学の現状 |
| 4 | 第2章 生理と病理：生理物質と神（生理物質） |
| 5 | 第2章 生理と病理：生理物質と神（神） |
| 6 | 第2章 生理と病理：生理物質と神（人体における陰陽） |
| 7 | 第2章 生理と病理：藏象学説 |
| 8 | 第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（肝） |
| 9 | 第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（心） |
| 10 | 第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（脾） |
| 11 | 第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（肺） |
| 12 | 第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（腎・三焦） |
| 13 | 第2章 生理と病理：五臓の相互関係・六腑の協調関係 |
| 14 | 第2章 生理と病理：全身の気機 |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 定期試験の解答と解説 |

| | | | |
|-----|---------|-----------|------|
| 科 目 | 鍼基礎実習 I | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 実習 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 1 年次 |
| | | 実施学期 | 前期 |
| 教員名 | 北園 実鈴 | 教員区分 | 実務教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 「はりきゅう実技<基礎編> 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | 「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 成績評価 | 実技試験・授業態度・出席状況による総合評価。 実技試験が6割以下の者、及び総合評価が6割以下の者は再試験とする。 |
| 留意事項 | 実習内容について毎日反復練習に努めること 体調をしっかり管理し、遅刻・欠席をしないこと(欠席-4点、遅刻・早退-2点、ふさわしくない身だしなみ-2点) |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 刺鍼の基本および身体各部への安全な刺鍼法を習得する。 鍼灸師として施術に必要な衛生概念を身につける。 |
| 授業概要 | 刺鍼に必要な基礎知識を学習する。衛生管理(用具・手指などの清潔保持、消毒)、医療過誤の概要を学ぶ。安全に適切な刺鍼が行えるよう基礎技術を習得する。 |

| | |
|------------|---------------------|
| 実務経験 | 鍼灸接骨院で勤務 |
| 実務経験と授業の関連 | 臨床で培った刺鍼技術を授業に取り入れる |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|-----------------------------------|
| 1 | 鍼の基礎知識① 手指の衛生管理 |
| 2 | 鍼の基礎知識② 姿勢、鍼の衛生的な準備、刺手、挿管 |
| 3 | 押手 |
| 4 | 前揉法～立管①、切皮① |
| 5 | 部位消毒、前揉法～立管②、切皮②、拔鍼 |
| 6 | 鍼の基礎知識③ 部位消毒～切皮(各自：大腿部) ① |
| 7 | 部位消毒～切皮(各自：大腿部) ②、刺入練習(刺鍼練習器など) ① |
| 8 | 刺入練習(刺鍼練習器など) ②、鍼尖感覚の練習 |
| 9 | 鍼の基礎知識④ 刺入練習(各自：大腿部) ① |
| 10 | 刺入練習(各自：大腿部) ② |

| | |
|-----|---------------|
| 1 1 | 刺入練習（各自：大腿部）③ |
| 1 2 | 刺入練習（各自：大腿部）④ |
| 1 3 | 刺入練習（各自：大腿部）⑤ |
| 1 4 | 実技試験 |
| 1 5 | フィードバック |
| 1 6 | 刺入練習（各自：下腿部） |

| | | | |
|-----|---------|-----------|------|
| 科 目 | 灸基礎実習 I | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 実習 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 1年次 |
| | | 実施学期 | 前期 |
| 教員名 | 前窪 美香 | 教員区分 | 実務教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 「はりきゅう実技<基礎編> 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | 「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 成績評価 | 実技試験、課題提出、出席状況、授業態度、身だしなみによる総合評価。 実技試験が6割以下の者、及び総合評価が6割以下の者は再試験とする。 |
| 留意事項 | 火の取り扱いに十分注意し、自宅でも反復練習に努めること。 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること(ふさわしくない身だしなみー2点) 体調をしっかり管理し、遅刻・欠席・早退をしないこと(欠席ー4点、遅刻・早退ー2点)。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 灸に関する基礎的な知識、技術を習得し、灸施術における動作を安全かつ正確に行える能力・態度を身に付ける。 |
| 授業概要 | 灸の基礎知識を学び、施灸の基礎技術を習得する。 |

| | |
|------------|-------------------|
| 実務経験 | 鍼灸接骨院で勤務 |
| 実務経験と授業の関連 | 臨床で培った技術を授業に取り入れる |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|----------------------------------|
| 1 | 授業の概要と進め方、実習上の諸注意、備品の取り扱い・準備について |
| 2 | 灸の基礎知識①、施灸練習(艾のひねり方、艾の立て方)① |
| 3 | 灸の基礎知識②、施灸練習(艾のひねり方、艾の立て方)② |
| 4 | 施灸練習(線香の使い方、リスク管理) |
| 5 | 施灸練習(点火)① |
| 6 | 施灸練習(点火)② |
| 7 | 施灸練習(灸温度計) |
| 8 | 施灸練習(紙への施灸)① |
| 9 | 施灸練習(紙への施灸)② |
| 10 | 施灸練習(紙への施灸)③ |

| | |
|-----|------------------------|
| 1 1 | 施灸練習（紙への施灸）④ |
| 1 2 | 施灸練習（紙への施灸）⑤ |
| 1 3 | 施灸練習（紙への施灸）⑥, 実技試験説明 |
| 1 4 | 実技試験 |
| 1 5 | 試験のフィードバック, 施灸練習（糸状灸）① |
| 1 6 | 施灸練習（糸状灸）②, 自身への施灸 |

| | | | |
|-----|----------|-----------|------|
| 科 目 | トレーニング実習 | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 実習 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 1学年 |
| | | 実施学期 | 前期 |
| 教員名 | 野呂 賢二 | 教員区分 | 実務教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 適宜資料を配布 |
| 参考書 | 授業中適宜紹介 |
| 成績評価 | 実技試験、出席、授業態度による総合評価。 実技試験が60点未満の者、総合評価が60点未満の者は再試験とする。 |
| 留意事項 | 遅刻や欠席をしないこと（欠席-6点、遅刻-2点）。 復習を行うこと。 個人のスポーツ経験に応じて、内容を変更していく。 |

| | |
|-------|------------------------------------|
| 科目の目標 | 基本的な人体構造を学ぶことで安全で安心して受療できる鍼灸師を目指す。 |
| 授業概要 | 運動器の基本的構造の理解と身体診察を学習する。 |

| | |
|------------|---------------------------------|
| 実務経験 | 中学、高校、大学、社会人、それぞれのスポーツトレーナーを経験。 |
| 実務経験と授業の関連 | スポーツトレーナーとしての経験を授業に取り入れる。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|---------------|
| 1 | ガイダンス・人体の区分 |
| 2 | 機能解剖 上肢帯の骨・筋① |
| 3 | 機能解剖 上肢帯の骨・筋② |
| 4 | 機能解剖 上肢帯の身体診察 |
| 5 | 上肢帯の動き① |
| 6 | 上肢帯の動き② |
| 7 | 機能解剖 下肢帯の骨・筋① |
| 8 | 機能解剖 下肢帯の骨・筋② |
| 9 | 機能解剖 下肢帯の身体診察 |
| 10 | 下肢帯の動き① |

| | |
|-----|-----------------|
| 1 1 | 下肢帯の動き② |
| 1 2 | 機能解剖 脊椎・胸郭と身体触診 |
| 1 3 | 体幹の動き |
| 1 4 | 実技試験 |
| 1 5 | 実技試験の解答と解説 |
| 1 6 | 総復習 |

| | | | |
|-----|-----------|-----------|------|
| 科 目 | 臨床医学各論 II | 分野区分 | 専門基礎 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 1 年次 |
| | | 実施学期 | 後期 |
| 教員名 | 與那霸 真樹 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 参考書 | 「病気が見える」シリーズ(メディックメディア) Vol. 2 循環器、vol. 4 呼吸器、vol. 5 血液、vol. 6 免疫・膠原病・感染症 |
| 成績評価 | 定期試験により評価 |
| 留意事項 | 病態の理解を目標とする為、漫然と単語を暗記する作業に陥らないように注意する事。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 臨床医学各論の分野における、感染症、循環器疾患、血液造血器疾患、呼吸器疾患について疾患名称とその病態把握を目指す。 |
| 授業概要 | 配布物を中心に、各疾患についての概念、症状、診断、治療、経過予後を学習する。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|---------------------------|
| 1 | オリエンテーション、感染症①(総論、細菌感染症①) |
| 2 | 感染症②(細菌感染症②、ウイルス感染症①) |
| 3 | 感染症③(ウイルス感染症②、性感染症) |
| 4 | 循環器疾患①(心臓疾患①) |
| 5 | 循環器疾患②(心臓疾患②) |
| 6 | 循環器疾患③(冠動脈疾患、動脈疾患、血圧異常) |
| 7 | 血液・造血器疾患①(赤血球疾患①) |
| 8 | 血液・造血器疾患②(赤血球疾患②) |
| 9 | 血液・造血器疾患③(白血球疾患、リンパ網内系疾患) |
| 10 | 血液・造血器疾患④(出血性素因) |
| 11 | 呼吸器疾患①(感染性呼吸器疾患) |
| 12 | 呼吸器疾患②(閉塞性呼吸器疾患、拘束性呼吸器疾患) |
| 13 | 呼吸器疾患③(その他の呼吸器疾患) |
| 14 | まとめ |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 定期試験の解答と解説 |

| | | | |
|-----|---------|-----------|------|
| 科 目 | 経絡経穴概論Ⅱ | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 1年次 |
| | | 実施学期 | 後期 |
| 教員名 | 内藤 玄吾 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) |
| 参考書 | 「ツボがある本当の意味」栗原誠 著 (B A B ジャパン) 「針灸学〔経穴編〕」天津中医薬大学 編 (東洋学術出版社) 「針灸経穴辞典」天津中医薬大学 編 (東洋学術出版社) 「経穴主治症総覧」池田政一 編著 (医道の日本社) 「カラー版 経穴マップ 第2版」王曉明 著 (医歯薬出版) |
| 成績評価 | 定期試験が60点に満たない者は再試験とする。 |
| 留意事項 | 授業内だけで覚えられる量では無いので、自宅での学習に努めること。 |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 経絡経穴についての基礎的知識（経絡名・経穴名・取穴部位）を理解習得し、鍼灸師としての基礎を作る。 |
| 授業概要 | 講義とアクティブラーニングの形式で実施する。講義では経穴名の由来と主治について、アクティブラーニングでは絵を書き、ビジュアルで経絡の流れと取穴法を記憶整理する。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|-------------------------------|
| 1 | 2章 十四経脈とその経穴 足の太陽膀胱經① |
| 2 | 2章 十四経脈とその経穴 足の太陽膀胱經② |
| 3 | 2章 十四経脈とその経穴 足の太陽膀胱經③ |
| 4 | 2章 十四経脈とその経穴 足の少陰腎經① |
| 5 | 2章 十四経脈とその経穴 足の少陰腎經② |
| 6 | 2章 十四経脈とその経穴 手の厥陰心包經・手の少陽三焦經① |
| 7 | 2章 十四経脈とその経穴 手の少陽三焦經② |
| 8 | 2章 十四経脈とその経穴 手の少陽三焦經③ |
| 9 | 2章 十四経脈とその経穴 足の少陽胆經 ① |
| 10 | 2章 十四経脈とその経穴 足の少陽胆經 ② |
| 11 | 2章 十四経脈とその経穴 足の少陽胆經 ③ |
| 12 | 2章 十四経脈とその経穴 足の厥陰肝經 ① |
| 13 | 2章 十四経脈とその経穴 足の厥陰肝經 ② |
| 14 | まとめ |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 解答・解説 |

| | | | |
|-----|---------|-----------|------|
| 科 目 | 東洋医学概論Ⅱ | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 1年次 |
| | | 実施学期 | 後期 |
| 教員名 | 飯塚 聰 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) |
| 参考書 | 適宜紹介する。 |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 遅刻・欠席をしないこと。質問は授業終了時までに必ず行い、疑問を持ち越さないこと。 |

| | |
|-------|--|
| 科目的目標 | 東洋医学についての基礎的な知識を学び、専門用語を理解する。 東洋医学的な人体の見方や病理を理解し、国家試験や臨床に応用する力をつける。 |
| 授業概要 | 東洋医学の基礎知識や成立の背景、人体の見方やその生理・病理を学ぶ。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|------------------------------|
| 1 | 前期の復習 |
| 2 | 第2章 生理と病理：五臓の相互関係① |
| 3 | 第2章 生理と病理：五臓の相互関係②、 |
| 4 | 第2章 生理と病理：五臓の相互関係③ |
| 5 | 第2章 生理と病理：六腑の協調関係 |
| 6 | 第2章 生理と病理：全身の気機 |
| 7 | 第2章 生理と病理：経絡 |
| 8 | 第2章 生理と病理：病因病機① |
| 9 | 第2章 生理と病理：病因病機② |
| 10 | 第2章 生理と病理：五臓の相互関係、経絡、病因病機の復習 |
| 11 | 第4章 四診：望診・聞診 |
| 12 | 第4章 四診：問診・切診 |
| 13 | 第5章 弁証論治：弁証① |
| 14 | 第5章 弁証論治：弁証②、後期の復習 |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 定期試験の解答と解説 |

| | | | |
|-----|-----------|-----------|------|
| 科 目 | 現代医学臨床論 I | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 1年次 |
| | | 実施学期 | 後期 |
| 教員名 | 山内 清敬 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 「東洋医学臨床論 くはりきゅう編」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 参考書 | 「鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ」矢野忠 編(文光堂) 「病期がみえるシリーズ」(メディックメディア)他適宜紹介 |
| 成績評価 | 授業内で行う小テストの成績を2割、期末試験の成績を8割の総合評価とする。 基本的に毎回前回分の小テストを行う。総合評価60点未満の場合は再試験とする。ただし、期末試験で60点未満の者も再試験とする。 |
| 留意事項 | 毎回、授業の復習を必ず行うこと。基本となる解剖(筋・支配神経)や生理の復習をはじめ、解剖や生理が疾患に結びついていることを理解すること。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 症状から疾患を鑑別し治療に結びつける能力を養う。特に注意を要する疾患に対しリスク管理ができるようにする。また、適応症と鑑別が行えることを目標とする。さらに各疾患について治療のみならず的確な生活指導を実施でき、臨床の幅を広げることを目標とする。 |
| 授業概要 | 症状・疾患ごとに重要なところを解説し、臨床で実践できるように講義する。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|----------------------------|
| 1 | 第2章 治療各論 運動麻痺 |
| 2 | 第2章 治療各論 頭痛 |
| 3 | 第2章 治療各論 顔面痛、歯痛 |
| 4 | 第2章 治療各論 顔面麻痺 |
| 5 | 第2章 治療各論 めまい、耳鳴りと難聴 |
| 6 | 第2章 治療各論 肩こり、肩痛 (含むスポーツ障害) |
| 7 | 第2章 治療各論 頸肩腕痛 (含むスポーツ障害) |
| 8 | 第2章 治療各論 上肢痛 (含むスポーツ障害) |
| 9 | 第2章 治療各論 手痛 (含むスポーツ障害) |
| 10 | 第2章 治療各論 腰下肢痛 (含むスポーツ障害) |
| 11 | 第2章 治療各論 膝痛 (含むスポーツ障害) |
| 12 | 第2章 治療各論 下腿痛 (含むスポーツ障害) |
| 13 | 第2章 治療各論 眼精疲労 |
| 14 | 復習 |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 定期試験の解答と解説 |

| | | | |
|-----|---------|-----------|------|
| 科 目 | 臨床鍼灸学 I | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 演習 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 1学年 |
| | | 実施学期 | 後期 |
| 教員名 | 與那覇 真樹 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 適宜配布物を用意いたします。 |
| 参考書 | 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「鍼灸臨床の科学」西條一止／熊澤孝朗 監修(医歯薬出版) 「自律神経機能検査 第5版」日本自律神経学会 編(文光堂) |
| 成績評価 | 期末試験の点数と授業内の小テストより評価(配点:期末試験80%, 小テスト20%) |
| 留意事項 | 実験機材の取り扱いと、軽度の身体負荷があるので体調変化に注意して下さい。 |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 生体の刺激に対する自律神経反応を測定機器の取り扱いを通じて理解する。 |
| 授業概要 | 身体に種々の刺激が加わった際に生じる活動の変化の有無を実験機材から得られるデータに対して血液・免疫・循環系、体温・代謝、神経系、内分泌系の知識を用いて、解釈・考察する事を学びます。必要に応じて、生理学の学習範囲の復習を行います。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|-----------------|
| 1 | オリエンテーション |
| 2 | 生理学分野の学習① |
| 3 | 生理学分野の学習② |
| 4 | 自律神経機能の観察方法の概要 |
| 5 | 生理学分野の学習③ |
| 6 | 自律神経の機能の観察(基礎) |
| 7 | 生理学分野の学習④ |
| 8 | 自律神経の機能・生体反応の測定 |
| 9 | 生理学分野の学習⑤ |
| 10 | 自律神経の機能・生体反応の測定 |
| 11 | 生理学分野の学習⑥ |
| 12 | 自律神経の機能・生体反応の測定 |
| 13 | 生理学分野の学習⑦ |
| 14 | 自律神経の機能・生体反応の測定 |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 解答と解説、授業総括 |

| | | | |
|-----|-------|-----------|------|
| 科 目 | 社会鍼灸学 | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 1学年 |
| | | 実施学期 | 後期 |
| 教員名 | 下山 隆朗 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|-----------------------------------|
| 教科書 | 「社会あはき学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | 適宜紹介する |
| 成績評価 | 定期試験による |
| 留意事項 | 鍼灸師と社会との関係において問題意識を持つこと |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 鍼灸師の役割や倫理観を再確認するとともに現代社会の問題点も考えていく |
| 授業概要 | 鍼灸師として知っておかなければならない歴史や問題点を学ぶとともに、現代を生きる鍼灸師として何が必要なのかを問題定義し、それを研究・発表する |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|--------------------|
| 1 | 鍼灸と社会① |
| 2 | 鍼灸と社会② |
| 3 | 鍼灸と社会③ |
| 4 | 鍼灸師を目指すものとして考えること① |
| 5 | 鍼灸師を目指すものとして考えること② |
| 6 | 鍼灸師を目指すものとして考えること③ |
| 7 | 鍼灸師を目指すものとして考えること④ |
| 8 | 鍼灸師と現代社会・医療との関わり① |
| 9 | 鍼灸師と現代社会・医療との関わり② |
| 10 | 鍼灸師と現代社会・医療との関わり③ |
| 11 | 鍼灸師と現代社会・医療との関わり④ |
| 12 | これからの鍼灸① |
| 13 | これからの鍼灸② |
| 14 | これからの鍼灸③ |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 定期試験の解答と解説 総説 |

| | | | |
|-----|----------|-----------|------|
| 科 目 | 臨床評価実習 I | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 実習 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 1 年次 |
| | | 実施学期 | 後期 |
| 教員名 | 前窪 美香 | 教員区分 | 実務教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 特になし |
| 参考書 | 「診察と手技がみえる 1 第2版」古谷伸之 編(メディックメディア) 「リハビリテーション医学 第4版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 成績評価 | 実技試験・出席状況(欠席-6点、遅刻・早退-2点)・授業態度(不適切な身だしなみ-4点)を総合的に評価する。 |
| 留意事項 | 接遇での常識的な言葉遣い(敬語)等は理解しておくこと。 授業に関連する項目の予習・復習(解剖学・生理学・臨床医学総論・リハビリテーション医学)に努めること。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 臨床(臨床実習)に臨む際の接遇基礎と基本的知識と技術、鍼灸臨床の場で用いる事が出来る所見や評価項目を習得し、所見や評価項目を用いて患者の病態や経過を推察する能力を身につけ、患者が不快なく施術を受けられる流れをつくるようとする。 |
| 授業概要 | 鍼灸臨床に必要な接遇・診察の知識・技術を習得し、所見や評価項目の意義・方法を理解し学生同士で練習を行う。 各所見や評価項目毎に知識を整理し身体診察の臨床的意義を理解する。 |

| | |
|------------|--------------------|
| 実務経験 | 鍼灸整骨院で勤務 |
| 実務経験と授業の関連 | 臨床で培った技術を授業に取り入れる。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|---------------------------|
| 1 | オリエンテーション、言葉使いの確認、 |
| 2 | 臨床実習に向けての接遇基礎、タオルワーク、患者誘導 |
| 3 | バイタルサイン、脈拍・血圧測定(水銀計・デジタル) |
| 4 | 身体計測(四肢長・周径)、ROM①、MMT① |
| 5 | ROM②、MMT② |
| 6 | ROM③、MMT③ |
| 7 | ROM④、MMT④ |
| 8 | 補助業務① |
| 9 | 補助業務② |
| 10 | 補助業務③ |

| | |
|-----|----------------|
| 1 1 | 総合復習① |
| 1 2 | 総合復習② |
| 1 3 | 総合復習③ |
| 1 4 | 実技試験 |
| 1 5 | 実技試験フィードバックと評価 |
| 1 6 | まとめ |

| | | | |
|-----|----------|-----------|------|
| 科 目 | 臨床経穴実習 I | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 実習 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 1年次 |
| | | 実施学期 | 後期 |
| 教員名 | 割田 萌 | 教員区分 | 実務教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「プロメテウス 解剖学アトラス 総論/運動器系」(医学書院) 「カラー版 経穴マップ 第2版」王曉明 著(医歯薬出版) |
| 成績評価 | 実技試験、出席、授業態度を総合的に評価する。 |
| 留意事項 | 必ず経穴名と部位の予習をして授業に臨み、復習をすること。 取穴しやすい服装を準備すること。 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること(ふさわしくない身だしなみー4点)。 遅刻・早退・欠席をしないこと(欠席ー6点、遅刻・早退ー2点)。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 経絡の流注を理解し、経穴の取穴法を習得する。 経穴の部位と局所解剖についても学習し習得する。 |
| 授業概要 | 経絡経穴概論で学習した経穴の取穴を行う。 担当教員により局所解剖と取穴の説明、デモンストレーション、各自で触擦・取穴の順で行う。 |

| | |
|------------|---------------------|
| 実務経験 | 往診にて臨床を行う。 |
| 実務経験と授業の関連 | 臨床で得た触察の技術を授業に還元する。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|------------------|
| 1 | オリエンテーション、手の太陰肺経 |
| 2 | 手の陽明大腸経 |
| 3 | 任脈 |
| 4 | 足の陽明胃経 |
| 5 | 足の太陰脾経 |
| 6 | 手の少陰心経・手の太陽小腸経 |
| 7 | 督脈 |
| 8 | 足の太陽膀胱経① |
| 9 | 足の太陽膀胱経② |
| 10 | 足の少陰腎経 |

| | |
|-----|-------------|
| 1 1 | 手の厥陰心包經 |
| 1 2 | 手の少陽三焦經 |
| 1 3 | 実技試験 |
| 1 4 | 実技試験 |
| 1 5 | 実技試験フィードバック |
| 1 6 | 総復習 |

| | | | |
|-----|----------|-----------|------|
| 科 目 | 鍼基礎実習 II | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 実習 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 1 年次 |
| | | 実施学期 | 後期 |
| 教員名 | 北園 実鈴 | 教員区分 | 実務教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 「はりきゅう実技 第2版<基礎編>」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | 「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 成績評価 | 実技試験・小テスト・実習態度・出席状況を総合して評価する。 |
| 留意事項 | 実習内容について毎日反復練習に努めること。 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること(ふさわしくない身だしなみー4点)。 基礎実習が将来の臨床へつながるので、遅刻、早退、欠席をしないよう体調をしっかりと管理すること(欠席ー6点、遅刻・早退ー2点)。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 刺鍼の基本および身体各部への安全な刺鍼法を習得する。 |
| 授業概要 | 刺鍼に必要な基礎知識を学習する。衛生管理(用具・手指などの清潔保持、消毒)、治療過誤の概要を学び安全な刺鍼法を十分に理解する。 局所解剖所見を踏まえ全身の身体各部に安全に刺入できる知識と技術(長さ、太さの異なる鍼を使用)を習得する。 |

| | |
|------------|---------------------|
| 実務経験 | 鍼灸接骨院で勤務 |
| 実務経験と授業の関連 | 臨床で培った刺鍼技術を授業に取り入れる |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|------------------------------------|
| 1 | オリエンテーション、大腿部(各自)直刺(銀鍼・ステンレス鍼) |
| 2 | 身体各部の刺鍼(対人):大腿 直刺 |
| 3 | 身体各部の刺鍼(対人):大腿 斜刺 |
| 4 | 身体各部の触診(対人):腰部・背部のランドマークの確認、タオルワーク |
| 5 | 身体各部の刺鍼(対人):腰部 直刺 |
| 6 | 身体各部の刺鍼(対人):腰部 斜刺 |
| 7 | 十七手技① |
| 8 | 十七手技② |
| 9 | 身体各部の刺鍼(対人):下腿 |
| 10 | 身体各部の刺鍼(対人):前腕 |

| | |
|-----|-----------------|
| 1 1 | 身体各部の刺鍼（対人）：後頸部 |
| 1 2 | 身体各部の刺鍼（対人）：腰部 |
| 1 3 | 実技試験 |
| 1 4 | 実技試験 |
| 1 5 | フィードバック、総合刺鍼 |
| 1 6 | 総合刺鍼 |

| | | | |
|-----|----------|-----------|------|
| 科 目 | 灸基礎実習 II | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 実習 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 1年次 |
| | | 実施学期 | 後期 |
| 教員名 | 前窪 美香 | 教員区分 | 実務教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 「はりきゅう実技<基礎編> 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | 「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 成績評価 | 定期試験、課題提出、出席状況による総合評価。 |
| 留意事項 | 火の取り扱いに十分注意し、自宅でも反復練習に努めること。 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること(ふさわしくない身だしなみー4点)。 遅刻・欠席をしないこと(欠席ー6点、遅刻ー2点)。 対人施灸では、感受性の差異に留意し、参加にあたっては体調管理に努めること。 |

| | |
|-------|---|
| 科目的目標 | 灸に関する基礎的な知識、技術を習得し、人体施灸(透熱灸)を安全かつ確実に行える技術・態度を身に付ける。 |
| 授業概要 | 灸の基礎知識を学び、一定の技量を習得し、学生同士での人体施灸を行う。 |

| | |
|------------|-------------------|
| 実務経験 | 鍼灸接骨院で勤務 |
| 実務経験と授業の関連 | 臨床で培った技術を授業に取り入れる |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|--------------------------------|
| 1 | 授業の概要と進め方、諸注意、灸基礎実習 I の復習 |
| 2 | 灸の基礎知識、施灸練習(紙上施灸、竹上への艾炷作成)① |
| 3 | 灸の基礎知識、施灸練習(紙上施灸、竹上への艾炷作成)② |
| 4 | 灸の基礎知識、施灸練習(紙上施灸、竹上への艾炷作成)③ |
| 5 | 灸の基礎知識、施灸練習(紙上施灸、竹上への艾炷作成)④ |
| 6 | 灸の基礎知識、施灸練習、消毒操作、人体施灸(自身への施灸)① |
| 7 | 灸の基礎知識、施灸練習、人体施灸(自身への施灸)② |
| 8 | 灸の基礎知識、施灸練習、人体施灸(自身への施灸)③ |
| 9 | 灸の基礎知識、施灸練習、人体施灸(対人施灸)① |
| 10 | 灸の基礎知識、施灸練習、人体施灸(対人施灸)② |

| | |
|-----|-------------------------|
| 1 1 | 灸の基礎知識，施灸練習，人体施灸（対人施灸）③ |
| 1 2 | 灸の基礎知識，施灸練習，人体施灸（対人施灸）④ |
| 1 3 | 総合復習 |
| 1 4 | 実技試験 |
| 1 5 | 試験フィードバック |
| 1 6 | 総合復習 |

| | | | |
|-----|-------|-----------|------|
| 科 目 | 医療概論 | 分野区分 | 専門基礎 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 1 6 |
| | | 履修年次 | 2学年 |
| | | 実施学期 | 前期 |
| 教員名 | 渡辺 悠美 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 「医療概論」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 参考書 | 適宜紹介 |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 教科書を毎回持参すること。 期末試験にかかるためだけの勉強としないこと。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 医療の変遷を知り、現代の医学と鍼灸との関わりについて自分なりに考える。 現代の医療制度や医療倫理を理解する。 |
| 授業概要 | 医療の変遷を学習し、その全体像を理解する。 国家試験に出題される内容の要点を理解する。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|------------------|
| 1 | 第1章 医療概論とは・西洋医学史 |
| 2 | 第1章 西洋医学史 |
| 3 | 第1章 東洋医学史・日本医学史 |
| 4 | 第2章 現代の医学 |
| 5 | 第2章 医療制度 |
| 6 | 第3章 医療倫理 |
| 7 | 定期試験 |
| 8 | 解答解説 |

| | | | |
|-----|---------|-----------|------|
| 科 目 | 経絡経穴概論Ⅲ | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 2年次 |
| | | 実施学期 | 前期 |
| 教員名 | 内藤 玄吾 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | ツボがある本当の意味 (BABジャパン) 針灸学 [経穴編] (東洋学術出版社) 経穴主治症総覧 (医道の日本社) 臨床経穴ポケットガイド (医歯薬出版) |
| 成績評価 | 小テスト3割、定期試験7割による総合評価。 総合評価、または定期試験が60点に満たない者は再試験とする。 |
| 留意事項 | 国家試験に頻出するため、経穴名、取穴部位、要穴表を確実に覚えること。 授業中の暗記時間を無駄にせず、自宅での反復学習に努めること。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 経絡経穴についての基礎的知識(経絡名・経穴名・取穴部位)を理解習得する。 要穴について(五俞穴、五行穴、八会穴、四総穴、下合穴、等)理解習得する。 奇經八脈・奇穴の基礎的知識(経絡名・経穴名・取穴部位)を理解習得する。 |
| 授業概要 | 各経絡経穴・要穴・奇經八脈・奇穴の名称と取穴部位を学び、理解する。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|-----------------------|
| 1 | 2章 十四経脈とその経穴 足の少陽胆経 ① |
| 2 | 2章 十四経脈とその経穴 足の少陽胆経 ② |
| 3 | 2章 十四経脈とその経穴 足の厥陰肝経 |
| 4 | 要 穴 ① |
| 5 | 要 穴 ② |
| 6 | 奇經八脈 ① |
| 7 | 奇經八脈 ② |
| 8 | 奇 穴 ① |
| 9 | 奇 穴 ② |
| 10 | 顔面部・頭部の経絡経穴 |
| 11 | 上肢の経絡経穴 |
| 12 | 下肢の経絡経穴 |
| 13 | 総復習① |
| 14 | 総復習② |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 解説・解答 |

| | | | |
|-----|-----------|-----------|------|
| 科 目 | 東洋医学臨床論 I | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 2年次 |
| | | 実施学期 | 前期 |
| 教員名 | 石田 大弥 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 「東洋医学臨床論(はりきゅう論)」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | プリントを配布 |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 第1~4回の授業は「新版 経絡経穴概論 第2版」をお持ちください。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 各愁訴・疾患における東洋医学的な病因病機を理解し、鍼灸処方を組み立てられること |
| 授業概要 | 東洋医学的な病因病機・処方を座学形式で学ぶ |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|-------------------|
| 1 | オリエンテーション/穴性学の基礎1 |
| 2 | 穴性学の基礎2 |
| 3 | 穴性学の基礎3 |
| 4 | 穴性学の基礎4 |
| 5 | 頭痛 |
| 6 | 顔面痛/歯痛 |
| 7 | 顔面麻痺 |
| 8 | 鼻閉・鼻汁 |
| 9 | 眼精疲労/脱毛症/めまい |
| 10 | 耳鳴り・難聴 |
| 11 | 咳嗽/喘息 |
| 12 | 胸痛/腹痛 |
| 13 | 恶心と嘔吐 |
| 14 | 処方練習 |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 定期試験の解答と解説 |

| | | | |
|-----|----------|-----------|------|
| 科 目 | 現代医学臨床論Ⅱ | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 2年次 |
| | | 実施学期 | 前期 |
| 教員名 | 山内 清敬 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 「東洋医学臨床論 〈はりきゅう編〉」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 参考書 | 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ(文光堂) 病気がみえるシリーズ(メディックメディア) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 臨床でも大切な内容であり、かつ範囲が広い内容であるため、特に復習に努めること。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 症状から疾患を鑑別し治療に結びつける能力を養い、特に注意を要する疾患に対しリスク管理をできるようにする。また、適応症と鑑別が行えることを目標とする。さらに各疾患について治療のみならず的確な生活指導を実施でき、臨床の幅を広げることを目標とする。 |
| 授業概要 | 症状・疾患ごとに重要なところを解説し、臨床で実践できるように講義する。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|--------------------|
| 1 | 呼吸器系1(鼻閉・鼻汁) |
| 2 | 呼吸器系2(咳嗽、喘息) |
| 3 | 疼痛(胸痛、腹痛) |
| 4 | 消化器系1(恶心・嘔吐、便秘・下痢) |
| 5 | 消化器系2(食欲不振、肥満) |
| 6 | 婦人科系(月経異常) |
| 7 | 泌尿器科系1(排尿障害) |
| 8 | 泌尿器科系2(インポテンツ) |
| 9 | バイタル1(高血圧症、低血圧症) |
| 10 | バイタル2(発熱、のぼせと冷え) |
| 11 | 不眠、疲労と倦怠 |
| 12 | 皮膚科系(脱毛症、発疹) |
| 13 | 老年医学、小児の症状 |
| 14 | 復習 |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 定期試験の解答と解説 |

| | | | |
|-----|---------|-----------|------|
| 科 目 | 臨床評価実習Ⅱ | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 実習 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 2年次 |
| | | 実施学期 | 前期 |
| 教員名 | 下山 隆朗 | 教員区分 | 実務教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 「臨床医学総論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「リハビリテーション医学 第4版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) |
| 参考書 | 「診断と手技がみえる①」 (メディックメディア) 「病気がみえるシリーズ」 (メディックメディア) |
| 成績評価 | 実技試験と出席状況等の総合評価。 実技試験が60点未満の者、総合評価が60点未満の者は再試験の対象とする。 |
| 留意事項 | 授業に関連する項目の予習・復習 (解剖学・生理学・臨床医学総論・リハビリテーション医学) に努めること。 シラバス・資料を参照し、授業がスムーズに行える服装で臨むこと。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 鍼灸臨床の場で用いる事が出来る所見や評価項目を習得する。 所見や評価項目を用い、患者の病態や経過を推察する能力を身につける。 |
| 授業概要 | 所見や評価項目の意義や方法を資料や教員のデモンストレーションにて理解し、学生同士で練習を行う。 各所見や評価項目毎に知識を整理する。 |

| | |
|------------|-----------------------|
| 実務経験 | 付属鍼灸院で臨床に携わる |
| 実務経験と授業の関連 | 臨床で行っている評価方法を授業に取り入れる |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|----------------------|
| 1 | オリエンテーション、I-① 感覚検査① |
| 2 | I-① 感覚検査② |
| 3 | I-① 反射検査① |
| 4 | I-① 反射検査② |
| 5 | I-① 反射検査③ |
| 6 | I-② 脳神経の検査① |
| 7 | I-② 脳神経の検査② |
| 8 | I-② 脳神経の検査③、髄膜刺激症状検査 |
| 9 | I-③ 徒手筋力検査① |
| 10 | I-③ 徒手筋力検査② |
| 11 | I-③ 徒手筋力検査③ |

| | |
|-----|-----------------|
| 1 2 | 総復習 |
| 1 3 | 実技試験 |
| 1 4 | 実技試験 |
| 1 5 | 実技試験 フィードバックと評価 |
| 1 6 | 検査と評価のまとめ |

| | | | |
|-----|---------|-----------|------|
| 科 目 | 臨床経穴実習Ⅱ | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 実習 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 2年次 |
| | | 実施学期 | 前期 |
| 教員名 | 北園 実鈴 | 教員区分 | 実務教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」(医学書院) |
| 成績評価 | 実技試験、出席点(1回欠席-6点・遅刻・早退-2点)、授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。 実技試験が60点未満の者、総合評価が60点未満の者は再試験の評価とする。 |
| 留意事項 | 必ず予習をして授業に臨み、復習をすること。 十四経については、所属の経穴名と部位を復習しておくこと。 シラバスを参照し、取穴しやすい服装で臨むこと。 |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 経絡の流注を理解し、経穴の取穴法を習得する。 経穴の部位と局所解剖についても学習し習得する。 |
| 授業概要 | 四肢の経穴を中心とした取穴を行う。 担当教員により局所解剖と取穴の説明、デモンストレーション、各自で触擦・取穴の順で行う。 |

| | |
|------------|------------------------|
| 実務経験 | 鍼灸接骨院で勤務 |
| 実務経験と授業の関連 | 臨床で使用している取穴方法を授業に取り入れる |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|-----------|
| 1 | オリエンテーション |
| 2 | 手の少陽三焦經 |
| 3 | 足の少陽胆經 1 |
| 4 | 足の少陽胆經 2 |
| 5 | 足の厥陰肝經 1 |
| 6 | 足の厥陰肝經 2 |
| 7 | 要穴 1 |
| 8 | 要穴 2 |
| 9 | 要穴 3 |
| 10 | 要穴 4 |

| | |
|-----|-------------|
| 1 1 | 要穴 5 |
| 1 2 | 要穴 6 |
| 1 3 | 要穴 7 |
| 1 4 | 実技試験 |
| 1 5 | 実技試験フィードバック |
| 1 6 | 総復習 |

| | | | |
|-----|----------|-----------|------|
| 科 目 | 触診触察実習 I | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 実習 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 2年次 |
| | | 実施学期 | 前期 |
| 教員名 | 浅野 貴之 | 教員区分 | 実務教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「東洋医学臨床論 <はりきゅう編>」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | 「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系」(医学書院) |
| 成績評価 | 実技試験、出席点(1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点)、授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。 実技試験点が60点未満の者、総合点が60点未満の者は再試験の対象とする。 |
| 留意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・1回完結の授業の為、できるだけ休まないこと。 ・<u>授業中</u>にできるだけ多くの人の体を借りて、経験を積むことでどんな体格でも触察できるようすること。 ・臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・触察部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・触察部位の構造(骨、筋、靭帯、神経、血管)を必ず予習してくること。 |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 「現代医学臨床論Ⅱ」で学習した各部位における症候に対し、障害を起こしやすい組織(筋・神経・関節など)を中心に触察および患者を想定した、触診(触り方)を習得する。さらに、男女や筋の発達度合い、脂肪の量による違いを経験する。 |
| 授業概要 | 局所解剖に基づいて、各症候で障害を起こしやすい組織の触察・触診見本を提示し、感触を経験した後に、各ペアで触察・触診をおこなう。 |

| | |
|------------|----------------------|
| 実務経験 | 鍼灸院を開業 |
| 実務経験と授業の関連 | 臨床で培った触診の技術を授業に取り入れる |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|--|
| 1 | オリエンテーション・基本的な触診方法 |
| 2 | 鼻閉・鼻汁に関わる診察および後頸部の触擦（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照） |
| 3 | 咳嗽・喘息に関わる診察および肩甲間部の触擦（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照） |
| 4 | 肋間神経痛に関わる診察および棘突起の触察（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照） |
| 5 | 腹部の診察（打診・触診）および背部（脊柱起立筋）の反応点の触察（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照） |
| 6 | 腹部の診察（聴診）および脊柱起立筋（腰部）の触察および触診（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照） |
| 7 | 腹部の触診（骨盤内臓）と八髎穴の触察および触診（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照） |
| 8 | 排尿障害に関わる組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照） |
| 9 | インポテンツ関わる組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照） |
| 10 | 血圧異常に関わる組織（総頸動脈）の触診（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照） |
| 11 | 発熱・のぼせ・冷えに対する診察（自律神経の見方）（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照） |
| 12 | 不眠・疲労・倦怠に関わる組織（後頭下筋群）の触察（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照） |
| 13 | 老年医学に関わる組織（大関節）の診察および触擦（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照） |
| 14 | 定期試験 |
| 15 | フィードバック |
| 16 | 総復習 |

| | | | |
|-----|----------|-----------|------|
| 科 目 | 鍼灸応用実習 I | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 実習 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 2年次 |
| | | 実施学期 | 前期 |
| 教員名 | 浅野 貴之 | 教員区分 | 実務教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「東洋医学臨床論 〈はりきゅう編〉」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | 「プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系」(医学書院) |
| 成績評価 | 実技試験、出席点(1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点)、授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。 |
| 留意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・1回完結の授業の為、できるだけ休まないこと。 ・<u>授業中に</u>できるだけ多くの人の体を借りて、経験を積むことでどんな体格でも刺鍼できるようにすること。 ・臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・刺鍼部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・刺鍼部位の構造(骨、筋、韌帯、神経、血管)を必ず予習してくること。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 「現代医学臨床論 I」で学習した各部位における症候に対し、障害を起こしやすい組織(筋・神経・関節など)を中心に刺鍼方法を習得する。 さらに、男女や筋の発達度合い、脂肪の量による違いを経験する。 |
| 授業概要 | 局所解剖に基づいて、各症候で障害を起こしやすい組織の刺鍼見本を提示し、鍼尖の感触を経験した後に、各ペアで刺鍼練習をおこなう。 |

| | |
|------------|----------------------|
| 実務経験 | 鍼灸院を開業 |
| 実務経験と授業の関連 | 臨床で培った鍼灸の技術を授業に取り入れる |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|--|
| 1 | オリエンテーション・基本的な触診方法 |
| 2 | 肩こりに関する組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 3 | 頸肩腕痛に関する組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 4 | 肩関節痛（スポーツ障害を含む）に関する組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 5 | 上肢痛（スポーツ障害を含む）に関する組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 6 | 陽下肢痛（スポーツ障害を含む）に関する組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 7 | 膝痛（スポーツ障害を含む）に関する組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 8 | 運動麻痺（末梢神経障害）に関する組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 9 | 頭痛に関する組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 10 | 顔面痛・歯痛に関する組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 11 | 顔面麻痺に関する組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 12 | めまい・耳鳴り・難聴に関する組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 13 | 眼精疲労に関する組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 14 | 定期試験 |
| 15 | フィードバック |
| 16 | 総復習 |

| 科 目 | 臨床実習 | 分野区分 | 専門 |
|-----|--------|-----------|------|
| | | 講義又は実習の区分 | |
| | | 履修区分 | |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 90 |
| | | 履修年次 | 2年次 |
| | | 実施学期 | 前・後期 |
| 教員名 | 鍼灸学科教員 | 教員区分 | 実務教員 |

| | |
|------|----------------------|
| 教科書 | 特になし |
| 参考書 | 特になし |
| 成績評価 | 評価表に基づく |
| 留意事項 | 臨床の場にふさわしい服装、態度で臨むこと |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 実際の臨床現場をしっかりと把握、理解し、適切な行動、患者対応ができる |
| 授業概要 | 鍼灸臨床に必要な患者対応の知識、技術を学習する 臨床実習上で必要な各種の動作を学ぶ |

| | |
|------------|-------------------------|
| 実務経験 | 新宿医療専門学校付属左門町鍼灸院にて勤務 |
| 実務経験と授業の関連 | 臨床現場で経験した知識、技術を授業に取り入れる |

日程【前期】

| 回 数 | 授業内容 |
|-------|--|
| 1・2 | |
| 3・4 | |
| 5・6 | |
| 7・8 | |
| 9・10 | |
| 11・12 | ・オリエンテーション |
| 13・14 | ・衛生管理、施術所内の環境把握、後片付け（原状復帰）、言葉遣い 接遇、カルテ内容の把握、ワゴン準備、施術ブース内の環境把握 |
| 15・16 | 鍼出し、リスク管理、患者誘導、タオルワーク、血圧測定、 抜鍼動作、廃棄物の処理、温灸の使い方、グループによるロールプレイ |
| 17・18 | |
| 19・20 | |
| 21・22 | |
| 23・24 | |
| 25・26 | |
| 27 | |
| 28・29 | |

| |
|-----------|
| 3 0 |
| 3 1 • 3 2 |
| 3 3 |
| 3 4 • 3 5 |
| 3 6 |

| | | | |
|-----|----------|-----------|------|
| 科 目 | 東洋医学臨床論Ⅱ | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 2年次 |
| | | 実施学期 | 後期 |
| 教員名 | 石田 大弥 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 「東洋医学臨床論くはりきゅう編」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | プリントを配布 |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 第13回の授業は「新版 東洋医学概論」をお持ちください。 |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 各愁訴・疾患における東洋医学的な病因病機を理解し、鍼灸処方を組み立てられること。 |
| 授業概要 | 東洋医学的な病因病機・処方を座学形式で学ぶ |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|-----------------|
| 1 | オリエンテーション／便秘と下痢 |
| 2 | 月経異常 |
| 3 | 排尿障害／インポテンツ |
| 4 | 肩こり／頸肩腕痛／肩関節痛 |
| 5 | 腰下肢痛 |
| 6 | 膝痛 |
| 7 | 運動麻痺 |
| 8 | 高血圧／低血圧 |
| 9 | 食欲不振／肥満 |
| 10 | 発熱／のぼせと冷え |
| 11 | 不眠／疲労と倦怠感 |
| 12 | 発疹／小児の症状 |
| 13 | 古代刺法 |
| 14 | 処方練習 |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 定期試験の解答と解説 |

| | | | |
|-----|-------------|-----------|------|
| 科 目 | 臨床鍼灸学Ⅱ | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 演習 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 2年次 |
| | | 実施学期 | 後期 |
| 教員名 | 浅野 貴之・北園 実鈴 | 教員区分 | 一般教員 |

浅野 貴之

| | |
|------|--|
| 教科書 | 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | 「針灸学 基礎編」日中共同編集(東洋学術出版社) |
| 成績評価 | 定期試験にて評価する。 50点満点とし、30点未満の場合、再試験とする。 科目の評価は、北園先生の期末試験の得点との合算とする。 |
| 留意事項 | 毎時限、内容が完結するため欠席をしないこと。過去の東洋医学の講義の上に知識を組み上げていくため、過去の資料やノートを見直しておくこと。また、確認が必要であれば資料やノートを持って受講すること。 |

| | |
|-------|--|
| 科目的目標 | 1. 臨牞性証において、各臓腑の病証を書き出すことができる。 2. 臨牞性証と病因論(「新版 東洋医学概論 第2章」にて学習済)を結びつけ、症状を推測できる。 3. サブテキスト内のA指定(最重要項目)を理解し、それを書き出すことができる。 4. 「新版東洋医学概論」第2章～第4章の重要事項を結びつけて説明することができる。 |
| 授業概要 | 1. 授業はプリント(サブテキスト)を用い、PCにてプレゼンテーション形式で説明する。 2. 必要に応じて、板書しながら説明していく。 3. 過去に行われた講義と弁証との関連付けをしながら講義を進めていく。 |

北園 実鈴

| | |
|------|--|
| 教科書 | 特になし |
| 参考書 | 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 成績評価 | 定期試験にて評価する。 50点満点とし、30点未満の場合、再試験とする。 科目の評価は、浅野先生の期末試験の得点との合算とする。 |
| 留意事項 | 各部位の構造と機能の予習を行なって授業に望むこと。 |

| | |
|-------|--|
| 科目的目標 | 鍼灸臨床で遭遇しやすい整形外科疾患や内科疾患の病態と鍼灸治療について学ぶ。 |
| 授業概要 | 生殖器、肩、腰、などの局所解剖を理解する。 疾患の病態生理を学ぶことによって鍼灸治療の方法を学ぶ。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 | |
|-----|-----------------------|---------|
| 1 | 東洋医学の捉え方① 臟腑学説と気血津液学説 | (浅野) |
| 2 | 婦人科疾患の病態と治療方針① | (北園) |
| 3 | 東洋医学の捉え方② 病因論 | (浅野) |
| 4 | 婦人科疾患の病態と治療方針② | (北園) |
| 5 | 東洋医学の捉え方③ 弁証論治、弁証の進め方 | (浅野) |
| 6 | 婦人科疾患の病態と鍼灸治療③ | (北園) |
| 7 | 東洋医学の捉え方④ 八綱弁証 | (浅野) |
| 8 | 腰痛疾患の病態と鍼灸治療① | (北園) |
| 9 | 東洋医学の捉え方⑤ 気血津液弁証 | (浅野) |
| 10 | 腰痛疾患の病態と治療方針② | (北園) |
| 11 | 東洋医学の捉え方⑥ 臟腑弁証 | (浅野) |
| 12 | 上肢の疾患の病態と治療方針① | (北園) |
| 13 | 東洋医学の捉え方⑦ 臟腑兼病病証 | (浅野) |
| 14 | 上肢の疾患の病態と治療方針② | (北園) |
| 15 | 定期試験 | (北園) |
| 16 | まとめ | (浅野・北園) |

| | | | |
|-----|-------------|-----------|------|
| 科 目 | 薬学概論 | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 2年次 |
| | | 実施学期 | 後期 |
| 教員名 | 根本 香代・水沼 未雅 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|-----------------------------|
| 教科書 | 特になし |
| 参考書 | 女性診療で使えるヌーベル漢方処方ノート(メディカ出版) |
| 成績評価 | 最終日の確認試験の結果を探点 |
| 留意事項 | 基礎となる生理学や東洋医学を復習しておくこと。 |

| | |
|-------|---|
| 科目的目標 | 生理学・東洋医学臨床論等の知識を活かし、鎮痛薬など一般的に服用されている薬を中心とした薬理や漢方薬の基礎を理解して患者とのコミュニケーションの幅を広げることを目的とする。患者が処方されている薬の概要を把握し、その効果をより高める治療ができる臨床家を育成する。 |
| 授業概要 | 現代的な薬学では症状別に、漢薬では証や生薬別に知識を深めていく。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 | |
|-----|------------------------------|------|
| 1 | 薬理学の基礎知識 | (根本) |
| 2 | 解熱・鎮痛薬 | (根本) |
| 3 | 抗感染症薬 | (根本) |
| 4 | 抗アレルギー薬 | (根本) |
| 5 | 循環器系に作用する薬物 | (根本) |
| 6 | 消化器系に作用する薬物 | (根本) |
| 7 | 神経系に作用する薬物 | (根本) |
| 8 | 確認試験 | (根本) |
| 9 | なぜ鍼灸師が漢方にについて知っておく必要があるのか? | (水沼) |
| 10 | 漢方の基礎理論 | (水沼) |
| 11 | 不妊・妊活のための漢方治療 | (水沼) |
| 12 | 冷え・月経トラブル・季節のトラブル、日常使用できる漢方薬 | (水沼) |
| 13 | アンチエイジング・更年期、高齢の方のための漢方 | (水沼) |
| 14 | 美容漢方 | (水沼) |
| 15 | 定期試験 | (水沼) |
| 16 | フィードバック | (水沼) |

| | | | |
|-----|--------|-----------|------|
| 科 目 | 治効理論 | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 2年次 |
| | | 実施学期 | 後期 |
| 教員名 | 與那覇 真樹 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 配布資料、「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | 「はりきゅう実技<基礎編>」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「生理学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 鍼灸領域の学術論文を基とした学習範囲なので、基礎医学(生理学領域のうち、とくに神経系)の再確認をしておく事。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | かつて、鍼灸は科学的根拠に乏しい治療と考えられてきたが、近年、科学的視点による実験から得られた知見より、治効理論が構築されてきた。 また、科学技術の進歩により細胞内外での情報伝達や化学反応が可視化された事で、鍼灸領域においても新たな観点が加わりつつある。 本科目は、鍼灸治療に関わる基礎知識・作用機序を学習し、臨床において根拠ある施術ができるようになることを目標とする。 |
| 授業概要 | 鍼灸が物理的に影響を及ぼす皮膚組織・筋組織・結合組織の現代医学的な理解を進める。 組織損傷時にみられる変化を学習し、鍼灸施術で生じる組織変化への理解を進める。 鍼灸刺激によって生じる神経系・内分泌系・免疫系の反応を学習する。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|---------------------------------|
| 1 | 第9章：鍼灸治効の基礎1…痛みの定義と分類 |
| 2 | 第9章：鍼灸治効の基礎2…神経生理学1(神経系の基礎) |
| 3 | 第9章：鍼灸治効の基礎3…神経生理学2(体性感覺の分類と性質) |
| 4 | 第9章：鍼灸治効の基礎4…鍼鎮痛1 |
| 5 | 第9章：鍼灸治効の基礎5…鍼鎮痛2 |
| 6 | 第9章：鍼灸治効の基礎6…鍼鎮痛3 |
| 7 | 第9章：鍼灸治効の基礎7…鍼灸施術の刺激と反応 |
| 8 | 第10章：鍼灸療法の一般治効理論1…自律神経生理学 |
| 9 | 第10章：鍼灸療法の一般治効理論2…自律神経反射 |
| 10 | 第10章：鍼灸療法の一般治効理論3…鍼灸施術による自律神経反応 |

| | |
|-----|---|
| 1 1 | 第10章：鍼灸療法の一般治効理論 4…鍼灸施術による生体防御機構の反応 |
| 1 2 | 第10章：鍼灸療法の一般治効理論 5…鍼灸施術と神経・内分泌・免疫系の相互作用 |
| 1 3 | 第11章：関連学説 1 |
| 1 4 | 第11章：関連学説 2 |
| 1 5 | 定期試験 |
| 1 6 | 解答と解説、授業総括 |

| | | | |
|-----|-----------|-----------|------|
| 科 目 | 触診触察実習 II | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 実習 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 2年次 |
| | | 実施学期 | 後期 |
| 教員名 | 浅野 貴之 | 教員区分 | 実務教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「東洋医学臨床論 <はりきゅう編>」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | 「プロメテウス解剖学 アトラス解剖学総論・運動器系」(医学書院) |
| 成績評価 | 実技試験、出席点(1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点)、授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。 実技試験点が60点未満の者、総合点が60点未満の者は再試験の対象とする。 |
| 留意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・1回完結の授業の為、できるだけ休まないこと。 ・授業中にできるだけ多くの人の体を借りて、経験を積むことでどんな体格でも触察できるようすること。 ・臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・触察部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・触察部位の構造(骨、筋、韌帯、神経、血管)を必ず予習してくること。 |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 「現代医学臨床論Ⅰ」で学習した各部位における症候に対し、障害を起こしやすい組織(筋・神経・関節など)を中心に触察および患者を想定した、触診(触り方)を習得する。さらに、男女や筋の発達度合い、脂肪の量による違いを経験する。 |
| 授業概要 | 局所解剖に基づいて、各症候で障害を起こしやすい組織の触察・触診見本を提示し、感触を経験した後に、各ペアで触察・触診をおこなう。 |

| | |
|------------|----------------------|
| 実務経験 | 鍼灸院を開業 |
| 実務経験と授業の関連 | 臨床で培った触診の技術を授業に取り入れる |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|--|
| 1 | オリエンテーション・基本的な触診方法 |
| 2 | 肩こりに関わる組織の触察および触診(現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照) |
| 3 | 頸肩腕痛に関わる組織の触察および触診(現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照) |
| 4 | 肩関節痛(スポーツ障害を含む)に関わる組織の触察および触診(現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照) |
| 5 | 上肢痛(スポーツ障害を含む)に関わる組織の触察および触診(現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照) |
| 6 | 腰下肢痛(スポーツ障害を含む)に関わる組織の触察および触診(現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照) |

| | |
|----|--|
| 7 | 膝痛（スポーツ障害を含む）に関する組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 8 | 運動麻痺（末梢神経障害）に関する組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 9 | 頭痛に関する組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 10 | 顔面痛・歯痛に関する組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 11 | 顔面麻痺に関する組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 12 | めまい・耳鳴り・難聴に関する組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 13 | 眼精疲労に関する組織の触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 14 | 定期試験 |
| 15 | フィードバック |
| 16 | 総復習 |

| | | | |
|-----|-------|-----------|------|
| 科 目 | 灸応用実習 | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 実習 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 2年次 |
| | | 実施学期 | 後期 |
| 教員名 | 内藤 玄吾 | 教員区分 | 実務教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 「はりきゅう実技<基礎編>」(公社) 東洋療法学校協会編 (医道の日本社) |
| 参考書 | 特になし |
| 成績評価 | 実技試験・出席状況・身だしなみを総合して評価する。 |
| 留意事項 | 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること (ふさわしくない身だしなみー4点) . 遅刻・欠席をしないこと (欠席ー6点, 遅刻ー2点) . 感受性の差異に留意し, 参加にあたっては体調管理に努めること. 火気の取り扱いに注意し, 適切に器具を扱うこと. 指示以外のこととは行わないこと. |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 灸の基礎実習で学習した事を基に, 基礎技術力のさらなる向上を目指す. 臨床において使用頻度の高い身体部位に対する施術方法を交え, 担当教員により各部位のデモンストレーションを行い指導する. |
| 授業概要 | 様々な灸法を学び, 治療に使用することのできる技術を習得する. |

| | |
|------------|-------------------|
| 実務経験 | 付属施術所で施術 |
| 実務経験と授業の関連 | 臨床で培った技術を授業に取り入れる |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|---------------|
| 1 | ガイダンス・紙上施灸 |
| 2 | 糸状灸作成練習 |
| 3 | 対人施灸 (透熱灸 復習) |
| 4 | 対人施灸 (腰部への灸) |
| 5 | 対人施灸 (温筒灸) |
| 6 | 対人施灸 (知熱灸) |
| 7 | 対人施灸 (肩背部への灸) |
| 8 | 対人施灸 (棒灸・箱灸) |
| 9 | 対人施灸 (腹部への灸) |
| 10 | 対人施灸 (隔物灸) |

| | |
|-----|--------------|
| 1 1 | 対人施灸（四肢への灸） |
| 1 2 | 対人施灸（体調管理の灸） |
| 1 3 | 定期試験① |
| 1 4 | 定期試験② |
| 1 5 | フィードバック・総復習 |
| 1 6 | 総復習 |

| | | | |
|-----|----------|-----------|------|
| 科 目 | 鍼灸用実習 II | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 実習 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 2年次 |
| | | 実施学期 | 後期 |
| 教員名 | 浅野 貴之 | 教員区分 | 実務教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「東洋医学臨床論 <はりきゅう編>」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | 「プロメテウス解剖学 アトラス解剖学総論・運動器系」(医学書院) |
| 成績評価 | 実技試験、出席点(1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点)、授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。 |
| 留意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・1回完結の授業の為、できるだけ休まないこと。 ・授業中にできるだけ多くの人の体を借りて、経験を積むことでどんな体格でも刺鍼できるようすること。 ・臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・刺鍼部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・刺鍼部位の構造(骨、筋、靭帯、神経、血管)を必ず予習してくること。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 「現代医学臨床論 I」で学習した各部位における症候に対し、障害を起こしやすい組織(筋・神経・関節など)を中心に刺鍼方法を習得する。 さらに、男女や筋の発達度合い、脂肪の量による違いを経験する。 |
| 授業概要 | 局所解剖に基づいて、各症候で障害を起こしやすい組織の刺鍼見本を提示し、鍼尖の感触を経験した後に、各ペアで刺鍼練習をおこなう。 |

| | |
|------------|----------------------|
| 実務経験 | 鍼灸院を開業 |
| 実務経験と授業の関連 | 臨床で培った鍼灸の技術を授業に取り入れる |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|--|
| 1 | オリエンテーション・基本的な触診方法 |
| 2 | 肩こりに関わる組織への刺鍼(現代医学臨床論 I の講義内容参照) |
| 3 | 頸肩腕痛に関わる組織への刺鍼(現代医学臨床論 I の講義内容参照) |
| 4 | 肩関節痛(スポーツ障害を含む)に関わる組織への刺鍼(現代医学臨床論 I の講義内容参照) |
| 5 | 上肢痛(スポーツ障害を含む)に関わる組織への刺鍼(現代医学臨床論 I の講義内容参照) |
| 6 | 腰下肢痛(スポーツ障害を含む)に関わる組織への刺鍼(現代医学臨床論 I の講義内容参照) |
| 7 | 膝痛(スポーツ障害を含む)に関わる組織への刺鍼(現代医学臨床論 I の講義内容参照) |
| 8 | 運動麻痺(末梢神経障害)に関わる組織への刺鍼(現代医学臨床論 I の講義内容参照) |

| | |
|----|---------------------------------------|
| 9 | 頭痛に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 10 | 顔面痛・歯痛に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 11 | 顔面麻痺に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 12 | めまい・耳鳴り・難聴に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 13 | 眼精疲労に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照） |
| 14 | 定期試験 |
| 15 | フィードバック |
| 16 | 総復習 |

| 科 目 | 分野区分 | 専門 |
|-----|-----------|--------------|
| | 講義又は実習の区分 | |
| | 履修区分 | |
| | 単位数 | 2 |
| | 時間数 | 90 |
| | 履修年次 | 2年次 |
| | 実施学期 | 前・後期 |
| 教員名 | 鍼灸学科教員 | 教員区分 実務教員 |

| | |
|------|----------------------|
| 教科書 | 特になし |
| 参考書 | 特になし |
| 成績評価 | 評価表に基づく |
| 留意事項 | 臨床の場にふさわしい服装、態度で臨むこと |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 実際の臨床現場をしっかりと把握、理解し、適切な行動、患者応対ができる |
| 授業概要 | 鍼灸臨床に必要な患者対応の知識、技術を学習する 臨床実習上で必要な各種の動作を学ぶ |

| | |
|------------|-------------------------|
| 実務経験 | 新宿医療専門学校付属左門町鍼灸院にて勤務 |
| 実務経験と授業の関連 | 臨床現場で経験した知識、技術を授業に取り入れる |

日程【後期】

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|---|
| 1 | |
| 2 | |
| 3 | |
| 4 | |
| 5 | |
| 6 | |
| 7 | |
| 8 | |
| 9 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・衛生管理、施術所内の環境把握、後片付け（原状復帰）、言葉遣い接遇、カルテ内容の把握、ワゴン準備、施術ブース内の環境把握 鍼出し、リスク管理、患者誘導、タオルワーク、血圧測定、 抜鍼動作、廃棄物の処理、温灸の使い方、グループによるロールプレイ |

| | | | |
|-----|--------------------------------------|-----------|------|
| 科 目 | 総合鍼灸実習 | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 実習 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 2年次 |
| | | 実施学期 | 後期 |
| 教員名 | (美容鍼) 北園 実鈴、(岡本 真理) (スポーツ鍼) 島田 正寿 | 教員区分 | 実務教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 特になし |
| 参考書 | 適宜授業内で紹介する。 |
| 成績評価 | 美容鍼の評価、スポーツ鍼の評価をそれぞれ50点満点としてその合算(100点満点)を総合評価点とする。 |
| 留意事項 | 応用実技なので、基礎鍼灸技術を反復練習し授業に臨むこと。 |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 疾患の治療だけでなく、様々なニーズに対応する鍼灸施術の習得を目的とする。美容鍼やスポーツ外傷の予防・ケアなど、時代背景に見合った幅広い臨床家を育成する。 |
| 授業概要 | 美容を目的としたフェイスケアや、各競技で障害を起こしやすい部位や、臨床で求められる技術を練習しながら理論とともに取得する。 |

| | |
|------------|--------------------------------|
| 実務経験 | 北園 実鈴：付属施術所で施術 島田 正寿：鍼灸院を開業 |
| 実務経験と授業の関連 | 臨床で培った技術を授業に取り入れる。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 | |
|-----|---------------------|------|
| 1 | 美容鍼のガイダンス 皮膚の構造 | (北園) |
| 2 | 表情筋ならびに咀嚼筋の刺鍼 | (北園) |
| 3 | 肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅰ | (北園) |
| 4 | 肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅱ | (北園) |
| 5 | 肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅲ | (北園) |
| 6 | 肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅳ | (北園) |
| 7 | 立体造顔美容に基づいた実技試験 | (北園) |
| 8 | 総括と総評 上級のデモンストレーション | (北園) |

| | | |
|----|------------------------|------|
| 9 | スポーツにおける上半身(首、肩)の障害と治療 | (島田) |
| 10 | スポーツにおける上半身(背部)の障害と治療 | (島田) |
| 11 | スポーツにおける上半身(上肢)の障害と治療 | (島田) |
| 12 | スポーツにおける下半身(腰部)の障害と治療 | (島田) |
| 13 | スポーツにおける下半身(鼠蹊部)の障害と治療 | (島田) |
| 14 | スポーツにおける下半身(下肢)の障害と治療 | (島田) |
| 15 | 実技試験 | (島田) |
| 16 | 成績評価、フィードバック | (島田) |

| | | | |
|-----|-----------|-----------|------|
| 科 目 | 衛生学・公衆衛生学 | 分野区分 | 専門基礎 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 3 学年 |
| | | 実施学期 | 1 学期 |
| 教員名 | 渡辺 悠美 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 「衛生学・公衆衛生学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 参考書 | 適宜紹介 |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 暗記する項目も多いため、復習を必ず行うこと。 不明点がある場合は、その都度質問すること。 |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 衛生学・公衆衛生学とは何かを理解し、社会で問題となっている事柄について考える。 国家試験に向けて、問題を解くための力を身につける。 |
| 授業概要 | 授業は、パワーポイントと資料を用いて行う。 毎回、小テストを行う。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|----------------|
| 1 | 衛生学・公衆衛生学とは |
| 2 | 健康 |
| 3 | ライフスタイルと健康 ① |
| 4 | ライフスタイルと健康 ② |
| 5 | 環境と健康 ① |
| 6 | 環境と健康 ② |
| 7 | 産業保健 |
| 8 | 精神保健 |
| 9 | 母子保健 |
| 10 | 感染症とその対策 ① |
| 11 | 感染症とその対策 ②、消毒法 |
| 12 | 疫学 |
| 13 | 保健統計 |
| 14 | 復習 |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 解説 |

| | | | |
|-----|---------|-----------|------|
| 科 目 | はりきゅう理論 | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 3学年 |
| | | 実施学期 | 1学期 |
| 教員名 | 與那霸 真樹 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 配布資料、「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | 「はりきゅう実技<基礎編>」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「生理学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) ほか、適宜必要に応じて紹介する。 |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 遅刻・欠席をしないこと。 基礎医学の知識を用いて学習内容が説明できるよう復習すること。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | かつて、鍼灸は科学的根拠に乏しい治療と考えられてきたが、近年、科学的視点による鍼灸分野での基礎実験より得られた知見より、治効理論が構築されてきた。 また、科学技術の進歩により細胞内外での情報伝達や化学反応が可視化された事で、鍼灸領域においても新たな観点が加わりつつある。 本科目は、鍼灸治療に関わる基礎知識・作用機序を学習し、臨床において根拠ある施術ができるようになることを目標とする。 |
| 授業概要 | 鍼灸臨床で用いる器具・技術・衛生的処置をきちんと理解し、実践できる知識の習得を目指し、関わる専門用語の解説を行う。 鍼灸刺激による生体反応・作用機序を理解し、「施術方法の選択」や「施術の根拠」などについて解説する。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|-------------------------|
| 1 | 鍼の基礎知識、刺鍼の方式と術式、特殊鍼法 |
| 2 | 灸の基礎知識 |
| 3 | 鍼灸の臨床応用 |
| 4 | リスク管理 |
| 5 | 鍼灸治効の基礎1：一般生理学 |
| 6 | 鍼灸治効の基礎2：痛みの生理学 |
| 7 | 鍼灸治効の基礎3：鍼鎮痛とは |
| 8 | 鍼灸治効の基礎4：下行性痛覚抑制系 |
| 9 | 鍼灸治効の基礎5：下行性痛覚抑制系以外の鍼鎮痛 |
| 10 | 鍼灸療法の一般治効理論1：自律神経生理学 |

| | |
|-----|-----------------------------|
| 1 1 | 鍼灸療法の一般治効理論 2：自律神経反射 |
| 1 2 | 鍼灸療法の一般治効理論 3：鍼灸施術による自律神経反応 |
| 1 3 | 関連学説 1 |
| 1 4 | 関連学説 2 |
| 1 5 | 定期試験 |
| 1 6 | 解答・解説 |

| | | | |
|-----|--------|-----------|------|
| 科 目 | 鍼基礎実習V | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 実習 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 3学年 |
| | | 実施学期 | 1学期 |
| 教員名 | 森田 義之 | 教員区分 | 実務教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 特になし |
| 参考書 | 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「運動療法のための機能解剖学的触診技術 第2版 上肢、下肢・体幹」 (メジカルビュー社) 「プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」(医学書院) |
| 成績評価 | 実技試験、出席、授業態度を総合的に評価する。 |
| 留意事項 | 体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 実習中はリスク管理に努め、無理な刺鍼や施灸は絶対にしないこと。 臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 刺鍼部位の構造(骨、筋、靭帯、神経、血管)を必ず予習してくること。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 鍼灸施術するために必要な知識・技術を習得する。 |
| 授業概要 | 2年間で学んだ基礎医学(解剖学・生理学)の知識、鍼基技術を基にして、実践的な臨床で使える鍼灸施術を学ぶ。運動学を基本とし、3Dで筋肉を理解し刺鍼を行う。鍼灸治療について教員がデモを行う。体表所見の取り方などを学び、刺鍼練習を行う。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|--------------------------|
| 1 | オリエンテーション |
| 2 | 刺鍼方法の基礎 |
| 3 | 僧帽筋の基礎知識と刺鍼法 |
| 4 | 肩甲拳筋の基礎知識と刺鍼法 |
| 5 | 棘下筋の基礎知識と刺鍼法 |
| 6 | 肩甲下筋の基礎知識と刺鍼法 |
| 7 | 三角筋の基礎知識と刺鍼法 |
| 8 | 脊柱起立筋の基礎知識と刺鍼法 |
| 9 | 大臀筋、中殿筋、小殿筋の基礎知識と刺鍼法 |
| 10 | 半腱様筋、半膜様筋、大腿二頭筋の基礎知識と刺鍼法 |

| | |
|-----|----------------|
| 1 1 | 大腿四頭筋の基礎知識と刺鍼法 |
| 1 2 | 下腿三頭筋の基礎知識と刺鍼法 |
| 1 3 | 実技試験 |
| 1 4 | 実技試験 |
| 1 5 | フィードバック |
| 1 6 | 総まとめ |

| | | | |
|-----|---------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合解剖学 I | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 3 学年 |
| | | 実施学期 | 1 学期 |
| 教員名 | 山口 智也 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 配布プリント |
| 参考書 | 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。 国家試験の過去問に積極的に取り組むこと。 |

| | |
|-------|------------------------|
| 科目の目標 | 国家試験に向け基礎力を固め、考える力を養う。 |
| 授業概要 | 解剖学を中心に国家試験対策を総合的に行う。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|---|
| 1 | 人体の構造(細胞・組織・体表構造・人体の区分と方向) |
| 2 | 運動器系(総論:骨格系・筋系, 骨格:脊柱・胸郭, 体幹:筋・運動・局所解剖・脈管・神経) |
| 3 | 運動器系(上肢骨格, 上肢筋・運動・局所解剖・脈管・神経) |
| 4 | 運動器系(下肢骨格, 下肢筋・運動・局所解剖・脈管・神経) |
| 5 | 運動器系(頭蓋骨, 頭頸部筋・体表および局所解剖・脈管・末梢神経) |
| 6 | 循環器系(血管系・心臓・動脈系・静脈系・胎児循環・リンパ系) |
| 7 | 循環器系(血管系・心臓・動脈系・静脈系・胎児循環・リンパ系) |
| 8 | 消化器系(消化管基本構造・口腔・咽頭・食道・胃・小腸) |
| 9 | 消化器系(大腸・肝臓・胆嚢・脾臓・腹膜), 泌尿器系(腎臓・尿路) |
| 10 | 神経系(神経系構成・中枢神経系) |
| 11 | 神経系(伝導路・末梢神経系) |
| 12 | 神経系(中枢神経系・末梢神経系・伝導路) |
| 13 | 呼吸器系(鼻腔・副鼻腔・咽頭喉頭・気管・気管支・肺), 内分泌系(下垂体・松果体・甲状腺・上皮小体・副腎・脾臓・性腺) |
| 14 | 感覚器系(視覚・平衡聴覚器・味覚・嗅覚器), 生殖系(男性・女性・受精と発生) |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 解答・解説, 総復習 |

| | | | |
|-----|---------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合生理学 I | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 3学年 |
| | | 実施学期 | 1学期 |
| 教員名 | 本多 淳 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|---------------------------------|
| 教科書 | 「生理学 3 版」(公社) 東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) |
| 参考書 | 国家試験過去問題集 |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 生理学の基礎知識の確認と苦手なポイントを再確認する |

| | |
|-------|---------------------------|
| 科目の目標 | 生理学やその他の科目もリンクして学習を効率良く行う |
| 授業概要 | 国家試験に向けた内容の総復習 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|-------------------|
| 1 | 生理学の復習と理解度チェック |
| 2 | 血液循環の復習と過去問題の検討 |
| 3 | 生体防御機構の復習と過去問題の検討 |
| 4 | 呼吸の復習と過去問題の検討 |
| 5 | 代謝の復習と過去問題の検討 |
| 6 | 消化と吸収の復習と過去問題の検討 |
| 7 | 排泄の復習と過去問題の検討 |
| 8 | 内分泌の復習と過去問題の検討① |
| 9 | 内分泌の復習と過去問題の検討② |
| 10 | 性ホルモンの復習と過去問題の検討 |
| 11 | 神経系の復習と過去問題の検討① |
| 12 | 神経系の復習と過去問題の検討② |
| 13 | 神経系の復習と過去問題の検討③ |
| 14 | まとめ |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 解答と解説 |

| | | | |
|-----|------------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合リハビリ医学 I | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 3学年 |
| | | 実施学期 | 1学期 |
| 教員名 | 下山 隆朗 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|---------------------------------------|
| 教科書 | 配布資料 |
| 参考書 | 「リハビリテーション医学 第4版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 復習を行うこと |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 2学年で習得したリハビリテーションの基礎力を固め、より深く考えられる力を養う |
| 授業概要 | 様々なりハビリテーションの諸問題を解決していく。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|-----------|
| 1 | 総合リハビリ医学① |
| 2 | 総合リハビリ医学② |
| 3 | 総合リハビリ医学③ |
| 4 | 総合リハビリ医学④ |
| 5 | 総合リハビリ医学⑤ |
| 6 | 総合リハビリ医学⑥ |
| 7 | 総合リハビリ医学⑦ |
| 8 | 総合リハビリ医学⑧ |
| 9 | 総合リハビリ医学⑨ |
| 10 | 総合リハビリ医学⑩ |
| 11 | 総合リハビリ医学⑪ |
| 12 | 総合リハビリ医学⑫ |
| 13 | 総合リハビリ医学⑬ |
| 14 | 総合リハビリ医学⑭ |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 解答と解説 |

| | | | |
|-----|---------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合経穴学 I | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 3学年 |
| | | 実施学期 | 1学期 |
| 教員名 | 北園 実鈴 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 適宜プリントを配布 |
| 参考書 | 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「東洋医学臨床論<はりきゅう編>」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 十四經について所属する経穴名が暗唱できること。 欠席をしないこと。 予習・復習を必ず行い、記憶すること。 国家試験の過去問に積極的に取り組むこと。 |

| | |
|-------|------------------------|
| 科目の目標 | 国家試験に向け基礎力を固め、考える力を養う。 |
| 授業概要 | 経絡経穴概論の国家試験対策を総合的に行う。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|---------------|
| 1 | 十四經書き取り① |
| 2 | 十四經書き取り② |
| 3 | 流注・骨度法 |
| 4 | 取穴部位・要穴① |
| 5 | 取穴部位・要穴② |
| 6 | 取穴部位・要穴③ |
| 7 | 取穴部位・要穴④ |
| 8 | 取穴部位・要穴⑤ |
| 9 | 取穴部位・要穴⑥ |
| 10 | 取穴部位・要穴⑦ |
| 11 | 取穴部位・要穴⑧ |
| 12 | 奇經・奇穴など |
| 13 | 頸部・顔面・頭部：取穴部位 |
| 14 | 取穴部位のまとめ |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 解答・解説、総復習 |

| | | | |
|-----|----------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合東洋医学 I | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 3学年 |
| | | 実施学期 | 1学期 |
| 教員名 | 棚田 徹也 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | 「東洋医学臨床論(はりきゅう論)」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 配布する資料を必ず持参すること。必ず復習を行うこと。 |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 国家試験の問題に対応できる知識と応用力の習得を目標とする。 |
| 授業概要 | 東洋医学概論の復習を行う。 国家試験過去問題を基に問題の解き方を学ぶ。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|-----------|
| 1 | 総合東洋医学 1 |
| 2 | 総合東洋医学 2 |
| 3 | 総合東洋医学 3 |
| 4 | 総合東洋医学 4 |
| 5 | 総合東洋医学 5 |
| 6 | 総合東洋医学 6 |
| 7 | 総合東洋医学 7 |
| 8 | 総合東洋医学 8 |
| 9 | 総合東洋医学 9 |
| 10 | 総合東洋医学 10 |
| 11 | 総合東洋医学 11 |
| 12 | 総合東洋医学 12 |
| 13 | 総合東洋医学 13 |
| 14 | 総復習 |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 解答・解説 |

| | | | |
|-----|-----------------------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合演習Ⅰ（総合臨床） 2コマ1日程 | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 6 4 |
| | | 履修年次 | 3学年 |
| | | 実施学期 | 1学期 |
| 教員名 | 鍼灸学科教員 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|----------------------|
| 教科書 | 特になし |
| 参考書 | 適宜紹介 |
| 成績評価 | 評価表に基づく |
| 留意事項 | 臨床の場に相応しい服装、態度で臨むこと。 |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 基礎医学に基づき、施術所来院患者に対し、的確な治療を体系立てて行えるように学習する。 治療の意義や目的を理解し、学生自身が自ら治療計画を立案できるように学習する。 |
| 授業概要 | 実際の臨床の中で患者を診ながら学習を進める。1年次、2年次を通じ基礎的な授業で学んできた実技と理論を実際の臨床のなかで治療として行えるよう総合的に学習する。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-------|---|
| 1・2 | |
| 3・4 | |
| 5・6 | |
| 7・8 | |
| 9・10 | |
| 11・12 | |
| 13・14 | |
| 15・16 | |
| 17・18 | |
| 19・20 | |
| 21・22 | |
| 23・24 | |
| 25・26 | |
| 27・28 | |
| 29・30 | |
| 31・32 | 治療の準備・治療の組立て・刺鍼・拔鍼・カルテの記載など 評価、治療の準備・治療の組立て・刺鍼・拔鍼・カルテの記載など |

| | | | |
|-----|-------|-----------|------|
| 科 目 | 社会鍼灸学 | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 3 学年 |
| | | 実施学期 | 2 学期 |
| 教員名 | 下山 隆朗 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 特になし。配布資料にて実施。 |
| 参考書 | 「医療概論」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「関係法規 第7版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「衛生学・公衆衛生学 第2版」(公社)東洋医療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 復習を行うこと |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 社会と鍼灸の関連を考察する。 今までに学んだ医療概論、関係法規、衛生学・公衆衛生学から社会鍼灸学に関連が深い範囲を再考察する。 |
| 授業概要 | 社会鍼灸学を学ぶとともに、それに関連の深い医療概論、関係法規、衛生学・公衆衛生学を併せて学んでいく。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|-------------|
| 1 | 社会鍼灸学と医療 |
| 2 | 社会鍼灸学と法規① |
| 3 | 社会鍼灸学と法規② |
| 4 | 社会鍼灸学と公衆衛生① |
| 5 | 社会鍼灸学と公衆衛生② |
| 6 | 社会鍼灸学と公衆衛生③ |
| 7 | 社会鍼灸学と公衆衛生④ |
| 8 | 社会鍼灸学と公衆衛生⑤ |
| 9 | 社会鍼灸学と公衆衛生⑥ |
| 10 | 社会鍼灸学と公衆衛生⑦ |
| 11 | 社会鍼灸学と公衆衛生⑧ |
| 12 | 社会鍼灸学と公衆衛生⑨ |
| 13 | 社会鍼灸学と公衆衛生⑩ |
| 14 | 社会鍼灸学と公衆衛生⑪ |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 定期試験の解答と解説 |

| | | | |
|-----|---------|-----------|------|
| 科 目 | 鍼基礎実習VI | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 実習 |
| | | 履修区分 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時 間 数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 3 学年 |
| | | 実施学期 | 2 学期 |
| | | 教員区分 | 実務教員 |
| 教員名 | 金子 尚史 | | |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 特になし。テーマに沿いテキストにて配布。 |
| 参考書 | 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「東洋医学臨床論くはりきゅう編」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」(医学書院) 「ネッター 解剖学アトラス」(南江堂) 「クリニカルマッサージ」(医道の日本社) |
| 成績評価 | 出席(1回欠席-6点・1回遅刻-2点)、相応しくない身だしなみ(-4点)、授業態度、実技試験を総合的に評価する。 |
| 留意事項 | 体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 1回完結の授業であるため、できるだけ欠席しないこと。 実習中はリスク管理に努め、無理な刺鍼は絶対にしないこと。 常に臨床を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 刺鍼部位の露出しやすい服装を心がけること。 刺鍼部位の構造(骨、筋、韌帯、神経、血管)を必ず予習してくること。 |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 触診、刺鍼技術の更なる向上と、様々な疾患に対して鍼灸治療を行うための、基本的な刺鍼技術や鍼通電技術を獲得する。 |
| 授業概要 | 2年間で学んだ基礎医学(解剖学、生理学)と実技実習(鍼基礎実習I・II・III・IV、臨床評価実習I・II、鍼灸応用実習I・II)の知識と技術を基にして、鍼灸院で多く受診される疾患に対して施術する場合の、基礎となるパルス治療、特に筋パルスの技術を獲得する。 |

| | |
|------------|--|
| 実務経験 | 講師歴22年 臨床歴22年 鍼灸、手技療法(あん摩・マッサージ・指圧・骨格矯正など) |
| 実務経験と授業の関連 | 臨床においては患者様の需要と、我々施術側の供給の一一致、何よりも適切で安全な施術が重要になります。2年間の基礎と、実務に応用できる内容の授業を実務経験のもとに行います。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|--|
| 1 | オリエンテーション(鍼について、灸について)、刺鍼(基礎)、リスクマネージメント…安全に刺鍼するには |
| 2 | 身体バランスの見方、上肢、上肢帯の経穴刺鍼法①肩甲骨周囲 |
| 3 | 身体バランスの見方、上肢、上肢帯の経穴刺鍼法②前胸部、上肢 |
| 4 | 背部筋を使って反応部位の探し方と刺激量の調節の仕方 |
| 5 | 身体バランスの見方、体幹部(背部)刺鍼法① |
| 6 | 身体バランスの見方、体幹部②腹部 倦募配穴との組み合わせ |
| 7 | 下肢帯①(骨盤、股関節)刺鍼法 |
| 8 | 下肢帯②(骨盤、股関節、下腿)刺鍼法 |
| 9 | 局所治療①頸部(斜角筋)～肩関節刺鍼法 |
| 10 | 局所治療②膝刺鍼法 |
| 11 | 全身調整～後療法① |
| 12 | 全身調整～後療法② |
| 13 | 症状に応じた施術、組み立て |
| 14 | 実技試験 |
| 15 | フィードバック |
| 16 | 総復習 |

| | | | |
|-----|--------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合解剖学Ⅱ | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 3 学年 |
| | | 実施学期 | 2 学期 |
| 教員名 | 山口 智也 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 特になし。配布資料で実施する。 |
| 参考書 | 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。 鍼灸師にとって必要な解剖学の知識を確認すること。. |

| | |
|-------|---------------------|
| 科目の目標 | 解剖学の基礎力を固め、考える力を養う。 |
| 授業概要 | 解剖学を中心に総合的に行う。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|---------|
| 1 | 総合解剖学1 |
| 2 | 総合解剖学2 |
| 3 | 総合解剖学3 |
| 4 | 総合解剖学4 |
| 5 | 総合解剖学5 |
| 6 | 総合解剖学6 |
| 7 | 総合解剖学7 |
| 8 | 総合解剖学8 |
| 9 | 総合解剖学9 |
| 10 | 総合解剖学10 |
| 11 | 総合解剖学11 |
| 12 | 総合解剖学12 |
| 13 | 総合解剖学13 |
| 14 | 総合解剖学14 |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 解答・解説 |

| | | | |
|-----|--------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合生理学Ⅱ | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 3学年 |
| | | 実施学期 | 2学期 |
| 教員名 | 本多 淳 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 参考書 | 「病気がみえる」シリーズ(メディックメディア) |
| 成績評価 | 定期試験により評価 |
| 留意事項 | 専門用語の位置づけ、各用語間の関連付けや、各用語の類似点・相違点の再確認を行う。用語の理解が足りない点については授業時間以上の時間を割いて学習すること。 |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 教育目標: 生理学教科書の各章ごとの概要・分類項目について全体像を意識させる。 到達目標: 生理学教科書にある専門用語について、概ね解説ができる。 |
| | 教科書について、印象付けを強くしておくべき内容の再確認を中心とする。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|-------------------|
| 1 | 神経(末梢神経・自律神経)の復習① |
| 2 | 神経(末梢神経・自律神経)の復習② |
| 3 | 体温の復習 |
| 4 | 筋の復習① |
| 5 | 筋の復習② |
| 6 | 運動の復習① |
| 7 | 運動の復習② |
| 8 | 感覚の復習① |
| 9 | 感覚の復習② |
| 10 | 生理学まとめ① |
| 11 | 生理学まとめ② |
| 12 | 生理学まとめ③ |
| 13 | 生理学まとめ④ |
| 14 | 生理学まとめ⑤ |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 解答・解説 |

| | | | |
|-----|---------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合病理学 I | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 3 学年 |
| | | 実施学期 | 2 学期 |
| 教員名 | 本多 淳 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 参考書 | 「標準病理学」(医学書院) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 成績評価 | 定期試験による評価 |
| 留意事項 | 中心は病理学だが、対比すべき生理学、病理学の指標を用いる臨床医学総論および臨床医学各論の勉強との並行が必要あり。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 教育目標： 病理学に頻出する専門用語についての理解の定着、検査や疾患概念を理解する為の土台となる分類項目の把握を目指す。 |
| | 到達目標： 病理学でよく問われやすい内容を中心に理解して、応用も効くようになること。 |
| 授業概要 | 病理学および関連科目の学習を行う。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|------------------|
| 1 | 疾病の復習 |
| 2 | 病因の復習 |
| 3 | 循環障害の復習① |
| 4 | 循環障害の復習② |
| 5 | 退行性病変の復習 |
| 6 | 進行性病変の復習 |
| 7 | 炎症の復習① |
| 8 | 炎症の復習② |
| 9 | 腫瘍の復習① |
| 10 | 腫瘍の復習② |
| 11 | 免疫異常・アレルギーの復習① |
| 12 | 免疫異常・アレルギーの復習② |
| 13 | 先天性異常の復習と過去問題の検討 |
| 14 | まとめ |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 解答・解説 |

| | | | |
|-----|----------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合臨床総論 I | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 3学年 |
| 教員名 | 與那覇 真樹 | 実施学期 | 2学期 |
| | | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 参考書 | 「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「東洋医学臨床論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 復習を必ず行い、記録・保存・想起の訓練を行ってください。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 臨床医学総論の領域について、全範囲の再確認と練度の向上を目指す。 |
| 授業概要 | 臨床検査で頻出する項目について、意味と評価から得られる情報を疾患別の特徴と病態概念との結びつきについて前学期までで習得した知識とのり合わせを行う。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|---------------------------------|
| 1 | 診察の意義・順序、医療面接の方法・記録方法、生命徵候の診察 1 |
| 2 | 生命徵候の診察 2、全身の診察 1(静的な所見: 色調など) |
| 3 | 全身の診察 2(動的な所見: 運動機能など) |
| 4 | 臨床検査法(尿検査、便検査) |
| 5 | 血液検査・血液生化学検査 1 |
| 6 | 血液生化学検査 2、画像診断の分類と特性 |
| 7 | 頭部顔面部の所見・症状 |
| 8 | 特殊感覚器官の所見・症状 |
| 9 | 胸部(体表および呼吸器)の所見・症状 |
| 10 | 腹部(体表および消化器)の所見・症状 |
| 11 | 腰部および生殖器・排泄器の所見・症状 |
| 12 | その他の評価法・治療法 1 |
| 13 | その他の評価法・治療法 2 |
| 14 | 総括 |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 解答・解説 |

| | | | |
|-----|----------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合臨床医学 I | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 32 |
| | | 履修年次 | 3学年 |
| | | 実施学期 | 2学期 |
| 教員名 | 與那覇 真樹 | 教員区分 | 一般教員 |

| | | |
|------|---------------------------------|------------------------|
| 教科書 | 「解剖学 第2版」 | (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) |
| | 「生理学 第3版」 | (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) |
| | 「病理学概論 第2版」 | (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) |
| | 「臨床医学総論 第2版」 | (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) |
| | 「臨床医学各論 第2版」 | (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) |
| | 「東洋医学臨床論」 | (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) |
| 参考書 | 関連教材から適宜 | |
| 成績評価 | 定期試験 | |
| 留意事項 | 総合的な学習となるので、必要と思われる分野の事前学習を行う事。 | |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 上述の各教科書分野について、各用語にみられる関連性を意識付けし、問題解決能力の向上を目指す。 |
| 授業概要 | 例題などを用いながら、臨床医学分野と基礎医学分野の医学用語の運用に慣れる事や、症例の読解訓練を行う。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|------------------------|
| 1 | 総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 1 |
| 2 | 総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 2 |
| 3 | 総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 3 |
| 4 | 総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 4 |
| 5 | 総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 5 |
| 6 | 総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 6 |
| 7 | 総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 7 |
| 8 | 総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 8 |
| 9 | 総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 9 |
| 10 | 総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 10 |

| | |
|-----|-------------------------|
| 1 1 | 総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 1 1 |
| 1 2 | 総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 1 2 |
| 1 3 | 総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 1 3 |
| 1 4 | 総合的な臨床医学用語の学習と読解の訓練 1 4 |
| 1 5 | 定期試験 |
| 1 6 | 解答と解説、授業総括 |

| | | | |
|-----|----------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合臨床各論 I | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 3 学年 |
| | | 実施学期 | 2 学期 |
| 教員名 | 下山 隆朗 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|-----------------------------------|
| 教科書 | 特になし。配布資料にて実施。 |
| 参考書 | 「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 遅刻・欠席をしないこと。必ず復習を行い記憶すること。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 今までに学んだ臨床医学の疾患をより深く学んでいく。 |
| 授業概要 | 一つ一つの疾患の特徴をより深く知ることにより、なぜ病気が発症し、なぜこの症状が出るのかを暗記ではなく理解できるようにしていく。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|-----------------|
| 1 | 感染症① |
| 2 | 感染症② |
| 3 | 消化器疾患① |
| 4 | 消化器疾患② |
| 5 | 肝・胆・膵疾患① |
| 6 | 肝・胆・膵疾患② 呼吸器疾患① |
| 7 | 呼吸器疾患② |
| 8 | 腎・尿器疾患 |
| 9 | 内分泌疾患 |
| 10 | 代謝・栄養疾患 |
| 11 | 循環器疾患① |
| 12 | 循環器疾患② |
| 13 | 血液・造血疾患 |
| 14 | 総復習 |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 解答と解説、授業総括 |

| | | | |
|-----|--------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合経穴学Ⅱ | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 3 学年 |
| | | 実施学期 | 2 学期 |
| 教員名 | 北園 実鈴 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | 「経絡・ツボの教科書」(新星出版社) 「東洋医学の教科書」(ナツメ社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 配布プリント |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 復習を欠かさず行うこと。 鍼灸師として必要な経穴の知識を確認しておくこと。 |

| | |
|-------|------------------------|
| 科目の目標 | 経絡経穴概論の基礎力を固め、考える力を養う。 |
| 授業概要 | 経絡経穴概論の内容を総合的に行う。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|--------|
| 1 | 経穴総合1 |
| 2 | 経穴総合2 |
| 3 | 経穴総合3 |
| 4 | 経穴総合4 |
| 5 | 経穴総合5 |
| 6 | 経穴総合6 |
| 7 | 経穴総合7 |
| 8 | 経穴総合8 |
| 9 | 経穴総合9 |
| 10 | 経穴総合10 |
| 11 | 経穴総合11 |
| 12 | 経穴総合12 |
| 13 | 経穴総合13 |
| 14 | 経穴総合14 |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 解答・解説 |

| | | | |
|-----|---------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合東洋医学Ⅱ | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 3 2 |
| | | 履修年次 | 3 学年 |
| | | 実施学期 | 2 学期 |
| 教員名 | 棚田 徹也 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 特になし。配布資料にて実施。 |
| 参考書 | 「東洋医学臨床論くはりきゅう編」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 復習を欠かさず行なうことが肝心です。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 東洋医学の総まとめを行う。 |
| 授業概要 | 東洋医学臨床論の復習を行う。 進行状況に応じて小テストを行いますので常に復習を心掛けること。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|-----------|
| 1 | 総合東洋医学 1 |
| 2 | 総合東洋医学 2 |
| 3 | 総合東洋医学 3 |
| 4 | 総合東洋医学 4 |
| 5 | 総合東洋医学 5 |
| 6 | 総合東洋医学 6 |
| 7 | 総合東洋医学 7 |
| 8 | 総合東洋医学 8 |
| 9 | 総合東洋医学 9 |
| 10 | 総合東洋医学 10 |
| 11 | 総合東洋医学 11 |
| 12 | 総合東洋医学 12 |
| 13 | 総合東洋医学 13 |
| 14 | 総合東洋医学 14 |
| 15 | 定期試験 |
| 16 | 解答・解説 |

| 科 目 | 分野区分 | 専門 |
|-----|-----------|--------------|
| | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | 履修区分 | 選択必修 |
| | 単位数 | |
| | 時間数 | 16 |
| | 履修年次 | 3学年 |
| | 実施学期 | 3学期 |
| 教員名 | 山口 智也 | 教員区分 一般教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 配布プリント |
| 参考書 | 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。 |

| | |
|-------|-----------------|
| 科目の目標 | 基礎力を固め、考える力を養う。 |
| 授業概要 | 解剖学を中心に総合的に行う。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|----------|
| 1 | 総合解剖学① |
| 2 | 総合解剖学② |
| 3 | 総合解剖学③ |
| 4 | 総合解剖学④ |
| 5 | 定期試験・まとめ |
| 6 | 解答・解説 |
| 7 | 総合演習① |
| 8 | 総合演習② |

| | | | |
|-----|----------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合生理学III | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 16 |
| | | 履修年次 | 3学年 |
| | | 実施学期 | 3学期 |
| 教員名 | 本多 淳 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 参考書 | 「病気がみえる」シリーズ(メディックメディア) 他、適宜紹介する。 |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 授業コマが少ないため欠席に気をつけること。 |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 教育目標: 生理学教科書の各章ごとの概要・分類項目について全体像を意識させる。 到達目標: 生理学教科書にある専門用語について、概ね解説ができる。 |
| | 授業概要 生理学・病理学における重点ポイントを復習する。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|-------|
| 1 | 総合演習1 |
| 2 | 総合演習2 |
| 3 | 総合演習3 |
| 4 | 総合演習4 |
| 5 | 定期試験 |
| 6 | 総合演習5 |
| 7 | 総合演習6 |
| 8 | 総合演習7 |

| | | | |
|-----|---------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合臨床総論Ⅱ | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 1 6 |
| | | 履修年次 | 3 学年 |
| | | 実施学期 | 3 学期 |
| 教員名 | 金子 尚史 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 配布プリント |
| 参考書 | 「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「東洋医学臨床論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。 |

| | |
|-------|----------------------|
| 科目の目標 | 総合的に考える力を養い、応用力をつける。 |
| 授業概要 | 臨床医学総論を中心に総合的に行う。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|----------|
| 1 | 総合臨床総論① |
| 2 | 総合臨床総論② |
| 3 | 総合臨床総論③ |
| 4 | 総合臨床総論④ |
| 5 | 定期試験・まとめ |
| 6 | 解答・解説 |
| 7 | 総合演習① |
| 8 | 総合演習② |

| | | | |
|-----|---------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合臨床医学Ⅱ | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 16 |
| | | 履修年次 | 3学年 |
| | | 実施学期 | 3学期 |
| 教員名 | 下山 隆朗 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 特になし。配布資料にて実施。 |
| 参考書 | 「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 遅刻・欠席をしないこと。必ず復習を行い理解すること。 |

| | |
|-------|------------------------|
| 科目の目標 | 今までに学んだ臨床医学をより深く学んでいく。 |
| 授業概要 | 一つ一つの病態を詳しく学んでいく |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|----------------|
| 1 | 種々の疾患の病態を理解する① |
| 2 | 種々の疾患の病態を理解する② |
| 3 | 種々の疾患の病態を理解する③ |
| 4 | 種々の疾患の病態を理解する④ |
| 5 | 定期試験・まとめ |
| 6 | 解答・解説 |
| 7 | 種々の疾患の病態を理解する⑤ |
| 8 | 総合演習 |

| | | | |
|-----|-----------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合臨床医学III | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 16 |
| | | 履修年次 | 3学年 |
| 教員名 | 本多 淳 | 実施学期 | 3学期 |
| | | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「東洋医学臨床論くはりきゅう編」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | 「基礎中医学」神戸中医学研究所 編著(燎原書店) 「針灸学[基礎篇]」後藤学園/天津中医薬大学 著(東洋学術出版) 「症状による中医診断と治療 上下巻」神戸中医学研究所 編著(燎原書店) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 授業コマが少ないため欠席に気をつけること。 |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | 今まで学習した東洋医学について分析を行い、自身の苦手分野を把握し、理解する。 |
| 授業概要 | 東洋医学概論と東洋医学臨床論の重要ポイントを復習する。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|-------|
| 1 | 総合演習① |
| 2 | 総合演習② |
| 3 | 総合演習③ |
| 4 | 総合演習④ |
| 5 | 定期試験 |
| 6 | 総合演習⑤ |
| 7 | 総合演習⑥ |
| 8 | 総合演習⑦ |

| | | | |
|-----|----------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合臨床医学IV | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 16 |
| | | 履修年次 | 3学年 |
| | | 実施学期 | 3学期 |
| 教員名 | 與那覇 真樹 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 配布プリント |
| 参考書 | 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「リハビリテーション医学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「はりきゅう理論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 復習を欠かさず行うこと。 医学知識の総合的な理解を目指すこと。 |

| | |
|-------|---------------------------|
| 科目の目標 | 医学的知識による問題解決能力を養う。 |
| 授業概要 | 鍼灸師の習得すべき知識について総合的な学習を行う。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|----------|
| 1 | 総合演習① |
| 2 | 総合演習② |
| 3 | 総合演習③ |
| 4 | 総合演習④ |
| 5 | 定期試験・まとめ |
| 6 | 解説 |
| 7 | 総合演習① |
| 8 | 総合演習② |

| | | | |
|-----|---------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合臨床各論Ⅱ | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 16 |
| | | 履修年次 | 3学年 |
| | | 実施学期 | 3学期 |
| 教員名 | 下山 隆朗 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|----------------------------------|
| 教科書 | 特になし。配布資料にて実施。 |
| 参考書 | 「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 遅刻・欠席をしないこと。必ず復習を行い理解すること。 |

| | |
|-------|---|
| 科目の目標 | 今までに学んだ臨床医学の疾患をより深く学んでいく。 |
| 授業概要 | 一つ一つの疾患を深く学ぶ、暗記をするのでなく、なぜ病気が発症し、なぜこの症状が出るのかを理解できるようにしていく。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|-----------|
| 1 | 種々の疾患を学ぶ① |
| 2 | 種々の疾患を学ぶ② |
| 3 | 種々の疾患を学ぶ③ |
| 4 | 種々の疾患を学ぶ④ |
| 5 | 定期試験 |
| 6 | 解答・解説 |
| 7 | 総合演習① |
| 8 | 総合演習② |

| | | | |
|-----|--------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合はき理論 | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 16 |
| | | 履修年次 | 3学年 |
| | | 実施学期 | 3学期 |
| 教員名 | 與那覇 真樹 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 配布プリントおよび学校協会教科書 |
| 参考書 | 「はりきゅう理論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。 国家試験の過去問に積極的に取り組むこと。 |

| | |
|-------|----------------------------------|
| 科目の目標 | 鍼灸でみられる治療に関わる働きを考える力を養い、応用力をつける。 |
| 授業概要 | はりきゅう理論、その他関連科目の総合的学習を行う。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|-------------------------|
| 1 | 総合的な生理・臨床医学・はりきゅう理論の学習① |
| 2 | 総合的な生理・臨床医学・はりきゅう理論の学習② |
| 3 | 総合的な生理・臨床医学・はりきゅう理論の学習③ |
| 4 | 総合的な生理・臨床医学・はりきゅう理論の学習④ |
| 5 | 定期試験・まとめ |
| 6 | 総合的な生理・臨床医学・はりきゅう理論の学習⑤ |
| 7 | 総合演習① |
| 8 | 総合演習② |

| | | | |
|-----|----------|-----------|-------|
| 科 目 | 総合経穴学III | 分野区分 | 専門 |
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 16 |
| | | 履修年次 | 3学年 |
| | | 実施学期 | 3学期 |
| 教員名 | 北園 実鈴 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|--|
| 教科書 | 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) |
| 参考書 | 「経絡・ツボの教科書」兵頭 明 著(新星出版社) 「基本としくみがよくわかる東洋医学の教科書」平馬 直樹ら 監修(ナツメ社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 配布プリント |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 復習を欠かさず行うこと。 国家試験の過去問を繰り返し解くこと。 |

| | |
|-------|----------------------|
| 科目の目標 | 国家試験に向け考える力を養う |
| 授業概要 | 経絡経穴概論の国家試験対策を総合的に行う |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|----------|
| 1 | 経穴演習① |
| 2 | 経穴演習② |
| 3 | 経穴演習③ |
| 4 | 経穴演習④ |
| 5 | 定期試験・まとめ |
| 6 | 経穴演習⑤ |
| 7 | 経穴演習⑥ |
| 8 | 総合演習⑦ |

| 科 目 | 総合東洋医学III | 分野区分 | 専門 |
|-----|-----------|-----------|-------|
| | | 講義又は実習の区分 | 講義・実習 |
| | | 履修区分 | 選択必修 |
| | | 単位数 | |
| | | 時間数 | 16 |
| | | 履修年次 | 3学年 |
| | | 実施学期 | 3学期 |
| 教員名 | 棚田 徹也 | 教員区分 | 一般教員 |

| | |
|------|---|
| 教科書 | 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「東洋医学臨床論くはりきゅう編」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) |
| 参考書 | 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 留意事項 | 必ず復習を行うこと。 |

| | |
|-------|-------------------|
| 科目の目標 | 知識と応用力の習得を目標とする。 |
| 授業概要 | 東洋医学概論を中心に総合的に行う。 |

日程

| 回 数 | 授業内容 |
|-----|---------|
| 1 | 総合東洋医学① |
| 2 | 総合東洋医学② |
| 3 | 総合東洋医学③ |
| 4 | 総合東洋医学④ |
| 5 | 定期試験 |
| 6 | 解答・解説 |
| 7 | 総合演習① |
| 8 | 総合演習② |